

新たな北海道総合計画策定に係る道民意向調査等の結果概要

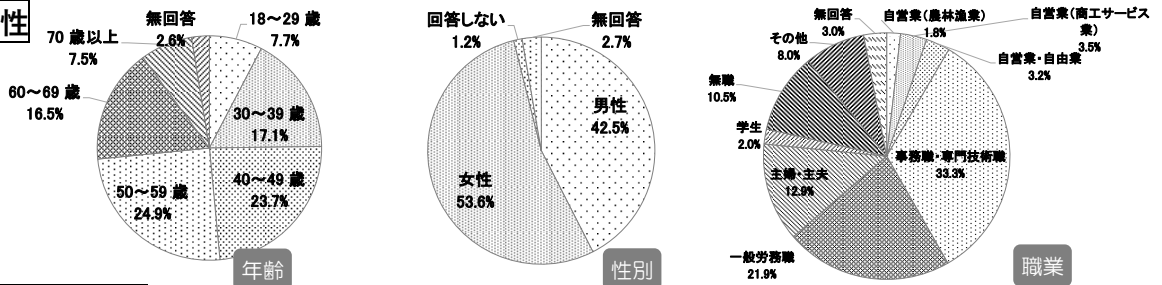
1. 道民意向調査の結果概要

【該当ページ】
 道民 p1
 企業・団体等 p9
 高校・大学生 p17
 地域住民 p25

調査の概要

方法：郵送による調査（期間：令和5年(2023年)9月）
 対象：道内に居住する満18歳以上の道民 1,500人（人口規模比例配分、振興局毎に無作為抽出）
 回答数：666/1,500（回収率44.4%）
 ※ 個々の比率(百分率)は、小数第1位ないし第2位を四捨五入しており、各区分の比率合計が100%にならない場合あり

対象者の属性

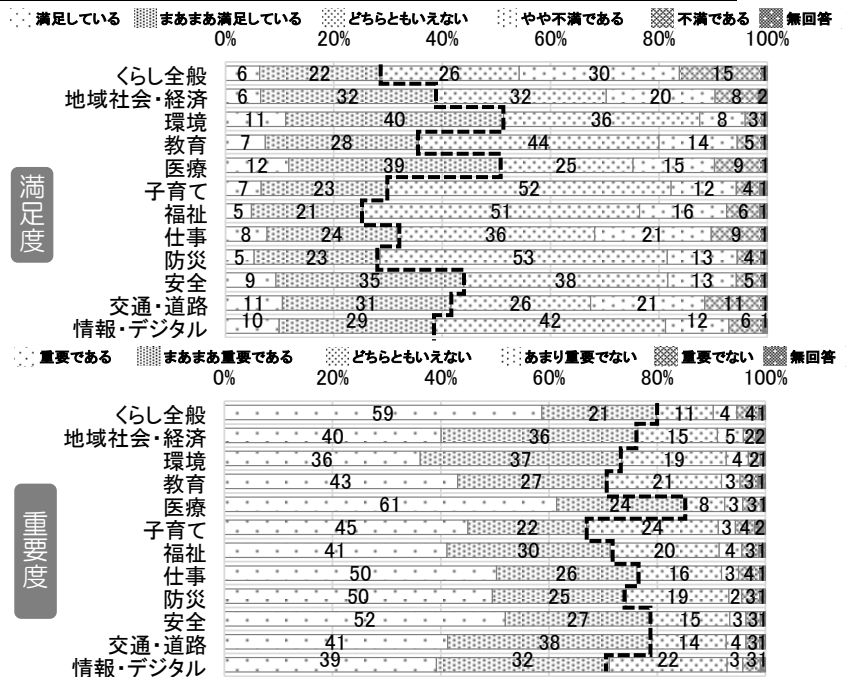


生活の満足度と重要度

問 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。また、今後の生活にとってどの程度重要であると思いますか。以下の各項目について、【満足度】と【重要度】から、番号をそれぞれ1つずつ選んでください。(n=666)

生活の満足度と重要度の傾向

- 満足度については、福祉や防災、くらし全般、子育て、仕事が低い
- 重要度については、総じて高いが、特に、医療、くらし全般、交通・道路、安全が高い
- 満足度と重要度の関係を見ると、特に、くらし全般、子育て、防災、福祉、仕事において、重要度に比べて満足度が低い



満足度と重要度の関係

	くらし全般					地域社会・経済					環境					教育				
	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低
高↑	5%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	8%	2%	0%	0%	0%	6%	1%	0%	0%	1%
満足	12%	7%	2%	0%	1%	13%	16%	3%	1%	0%	12%	24%	4%	0%	0%	14%	13%	1%	0%	0%
↓	11%	6%	7%	2%	1%	8%	13%	10%	1%	0%	9%	10%	15%	2%	1%	12%	10%	20%	2%	1%
低	19%	7%	2%	2%	1%	9%	7%	2%	2%	0%	5%	2%	0%	2%	0%	8%	4%	1%	1%	0%
	13%	1%	0%	0%	2%	6%	1%	0%	0%	2%	2%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	0%	1%

	医療					子育て					福祉					仕事				
	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低
高↑	10%	1%	0%	0%	0%	4%	1%	0%	0%	1%	3%	1%	0%	1%	1%	6%	1%	0%	0%	1%
満足	22%	15%	1%	0%	1%	12%	10%	1%	0%	0%	7%	10%	2%	1%	0%	12%	10%	1%	1%	1%
↓	13%	4%	6%	1%	1%	18%	9%	23%	1%	2%	18%	15%	17%	1%	1%	14%	9%	14%	0%	1%
低	10%	2%	0%	2%	1%	8%	2%	0%	1%	0%	9%	5%	1%	2%	0%	12%	6%	1%	2%	1%
	8%	0%	0%	0%	1%	4%	0%	0%	0%	1%	5%	0%	0%	0%	1%	8%	1%	0%	0%	1%

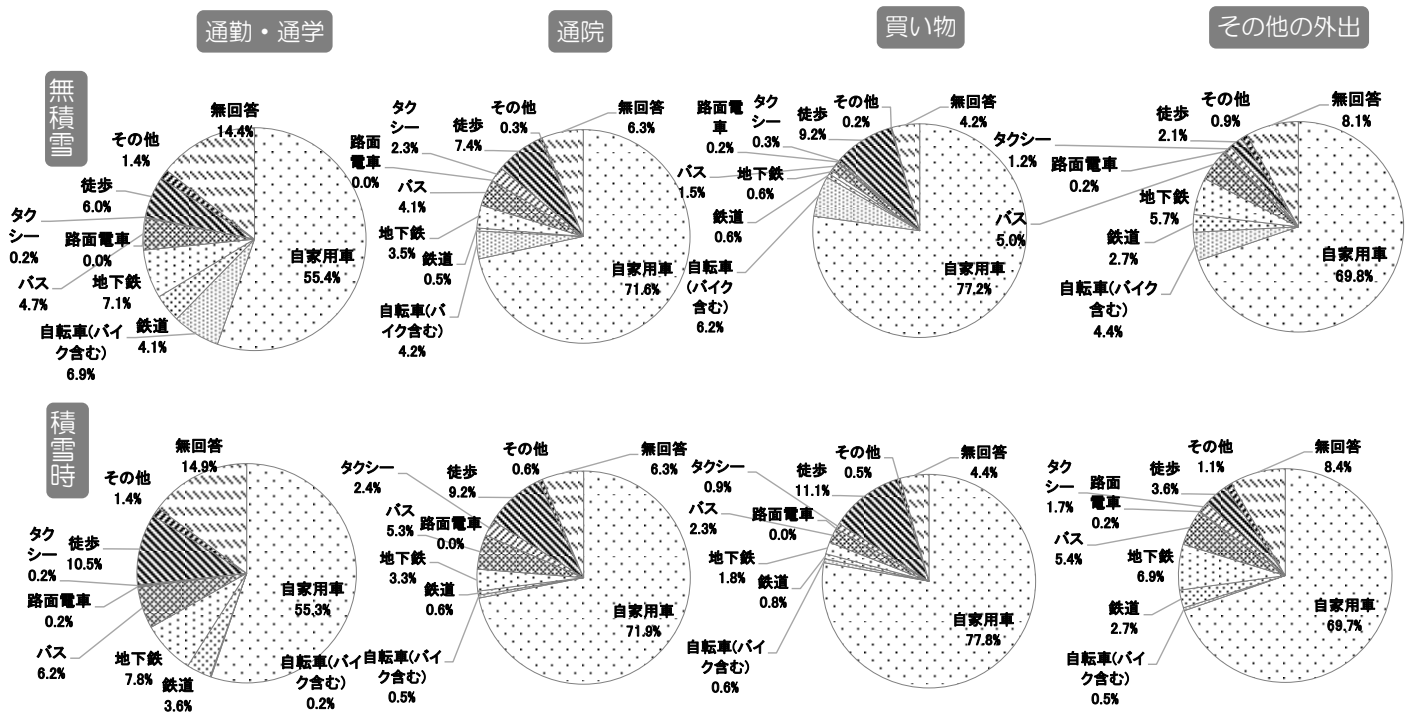
	防災					安全					交通・道路					情報・デジタル				
	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低	高	←	重要	→	低
高↑	4%	1%	0%	0%	1%	7%	1%	0%	0%	0%	7%	2%	1%	0%	0%	7%	2%	0%	0%	1%
満足	10%	12%	1%	0%	0%	19%	15%	1%	1%	0%	12%	18%	2%	0%	0%	12%	15%	1%	0%	0%
↓	25%	10%	18%	0%	1%	14%	9%	13%	1%	1%	7%	8%	11%	1%	0%	11%	11%	19%	1%	1%
低	8%	2%	0%	2%	1%	7%	2%	1%	1%	1%	9%	8%	1%	2%	1%	6%	3%	1%	2%	1%
	4%	0%	0%	0%	1%	4%	0%	0%	0%	0%	7%	2%	0%	0%	1%	5%	0%	0%	0%	1%

日常における移動手段と満足度

問 あなたが普段の生活で利用している主な移動手段は何ですか。また、その移動手段の利用環境に満足していますか。無積雪時と積雪時について、外出目的ごとに、【主な移動手段】【満足度】から記号を1つずつ選び、記入してください。(n=666)

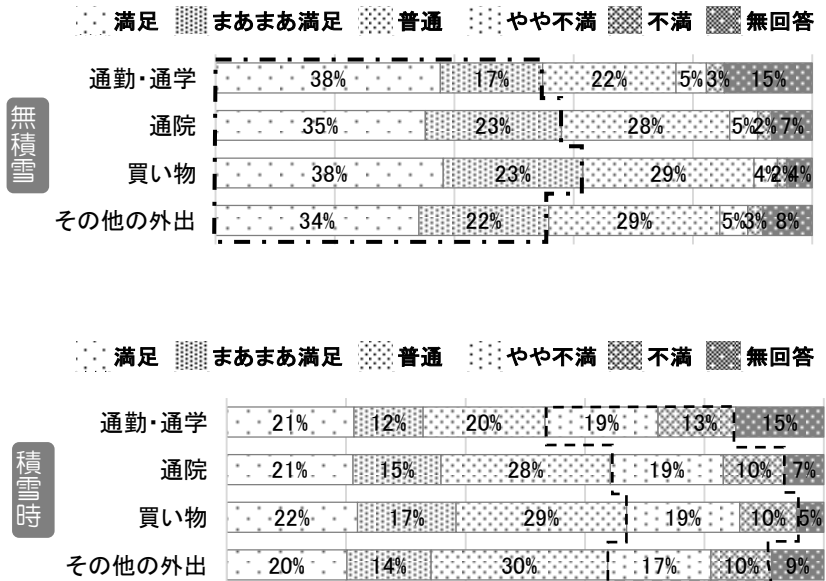
交通手段の傾向

- ・鉄道、バスなどの公共交通機関の比率は、通勤・通学で20%以下、買い物では10%以下となっており、**自家用車の依存度の高さ**を示している
- ・積雪の有無での大きな違いはないが、**自転車(バイク含む)が減少**する一方、**徒歩が増加**している



交通の満足度の傾向

・積雪がない時期の交通については、どの外出機会でも“満足”、または、“まあまあ満足”が半数以上を占めるが、**積雪時は、不満の割合が増大し、特に通勤・通学時の不満が最も大きくなっている**

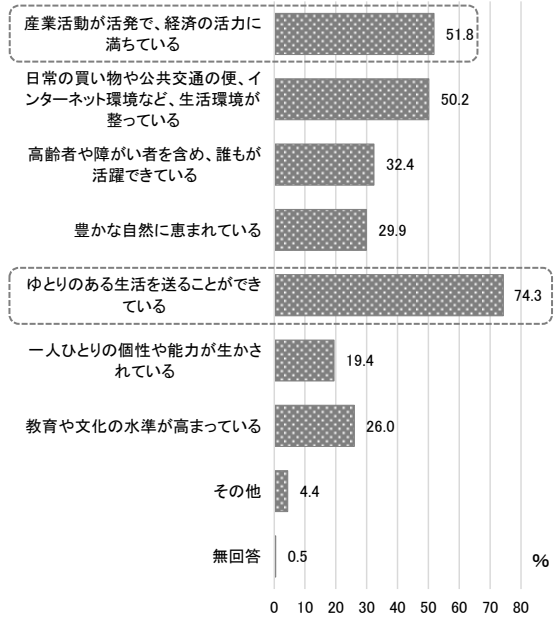


北海道の姿について

問 北海道がどのような社会であってほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,923)

■傾向

・“ゆとりのある生活を送ることができている”の割合が最も高く、次いで“経済の活力に満ちている”が続き、日常生活に関わる事項の関心が高い
(主な意見):子どもたちが安心安全に過ごせる社会、誰もが差別されない社会

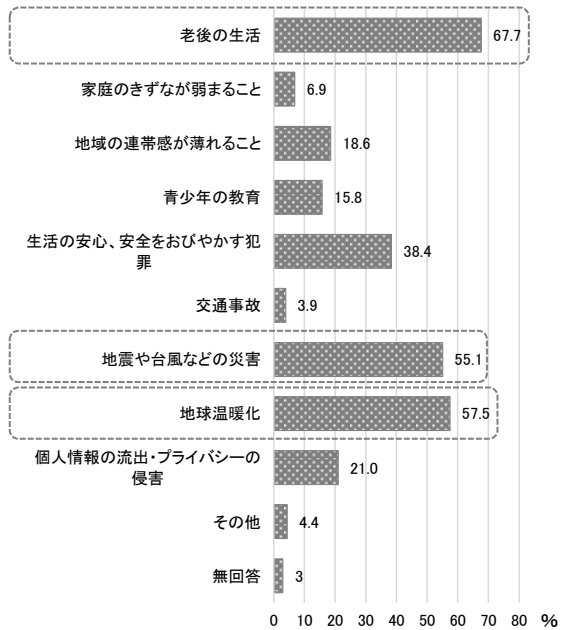


今後の社会的問題について

問 家庭や地域の中で、これから2030年にかけてどのようなことが特に大きな問題になると思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,929)

■傾向

・“老後の生活”の割合が最も高く、上問と同様、日常生活に関わる事項の関心が高い。次いで“地球温暖化”、“地震や台風などの災害”が続く。
(主な意見):過疎化や少子高齢化による地域経済格差の拡大、物価上昇による生活水準の低下

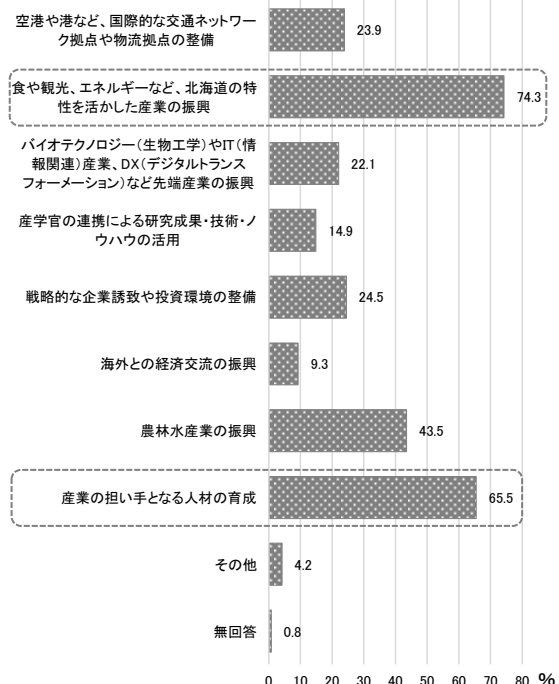


経済・産業の活性化について

問 道内の経済・産業の活性化を図るため、今後道はどのようなことに力を入れるべきか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,884)

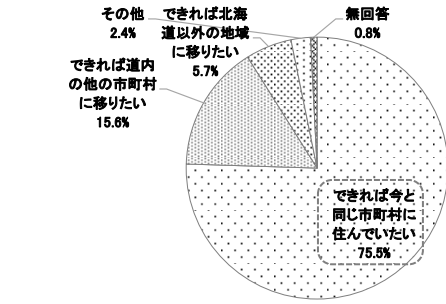
■傾向

・“北海道の特性を活かした産業の振興”の割合が最も高く、次いで“担い手となる人材の育成”の順となっている。北海道のポテンシャルを活かした産業への期待、人材育成が重要であると考えられる割合が高い
(主な意見):北海道の自然環境を活かした観光の推進、人材不足の解消



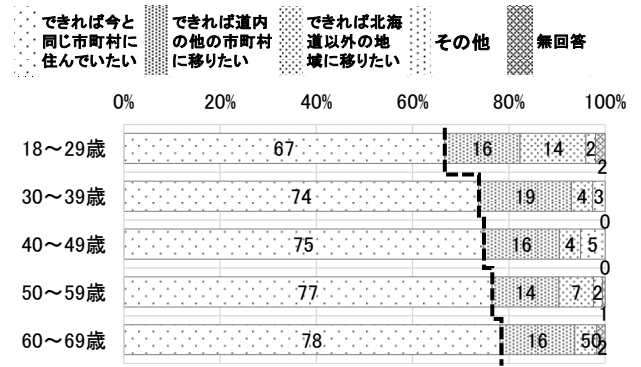
お住まいの地域について

問 現在住んでいる市町村にこれからも住みたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。
(n=666)



傾向

・“できれば同じ市町村に住みたい”の割合が最も高いが、若い世代ほど移転希望が高くなり、30歳未満では、30%近くに達する
(主な意見)：子どもの将来の生活拠点による、現在住んでいる市町村以外に選択肢がない

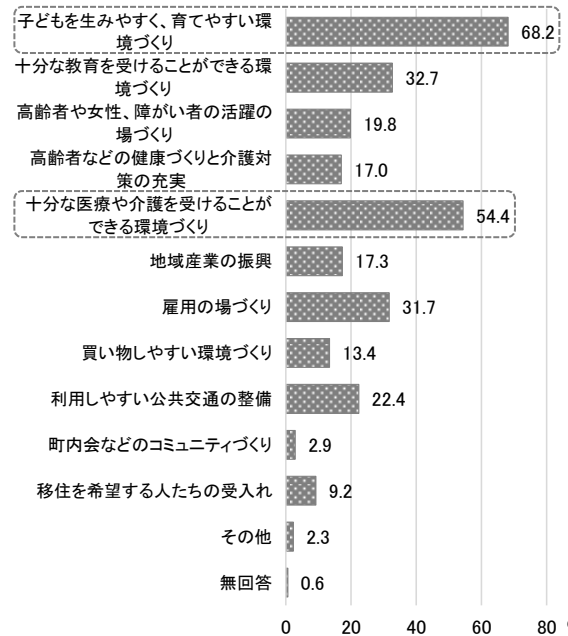


人口減少・少子高齢社会への対応について

問 人口減少・少子高齢化が進行する中、住みよい地域社会を実現していくため、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。
(n=1,923)

傾向

・“子どもを生みやすく、育てやすい環境”の割合が最も高く、次いで“医療・介護”が続いており、こうした課題を重視する割合が高い
(主な意見)：住んでみたいと思うような魅力ある環境づくり、教育費の負担軽減

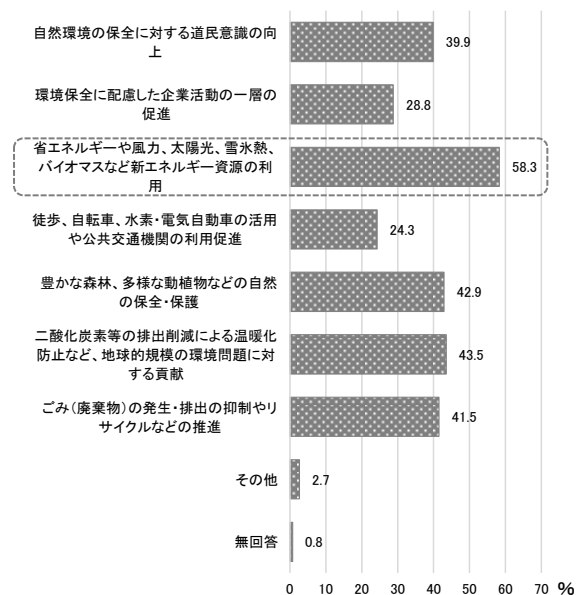


環境にやさしい地域社会について

問 人と自然が共生し、環境と調和した地域社会を構築していくに当たって、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。
(n=1,884)

傾向

・“新エネルギー利用”の割合が最も高く、北海道が有するエネルギー資源への期待が大きい
(主な意見)：自然環境に配慮した再生可能エネルギーの導入、納得感のある環境保全対策

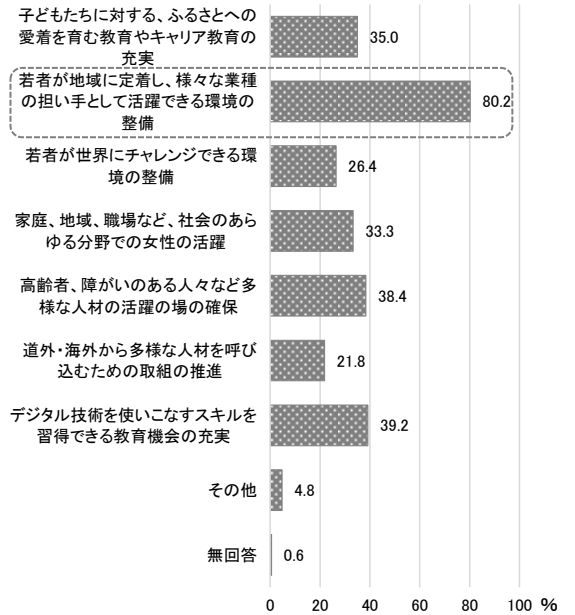


地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保について

問 地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保を図るため、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,863)

■傾向

・“若者が地域に定着し、担い手として活躍できる環境”の割合が最も高い
 (主な意見)：年齢・性別・障がいの有無に関係なく様々な業種で人材が活躍できる環境の整備、学び直しができる教育環境の整備

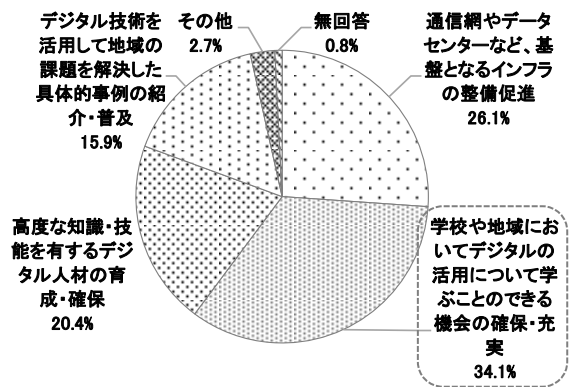


デジタル化について

問 本道では、全国を上回るスピードで急速に進行する人口減少や少子高齢化、広域分散型の社会構造などの課題を解決するため、ICTやAIなどといったデジタルを活用した取組を一層進める必要があると考えられていますが、そのために、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から1つ選んでください。(n=666)

■傾向

・“デジタル活用を学ぶ機会の確保”の割合が最も高く、デジタルリテラシーの向上が重要と考える傾向にある
 (主な意見)：デジタルの便利さについての理解促進、個人情報の保護、デジタルに頼ることへの疑問

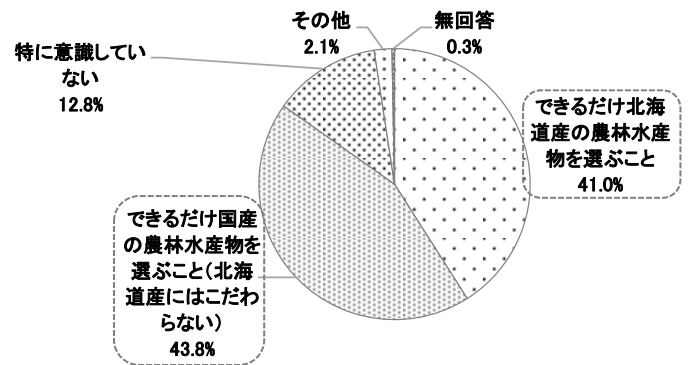


農林水産物の購入に当たって重視することについて

問 世界の食料需給等を巡るリスクが顕在化する中、食料安全保障への関心が高まっており、本道の農林水産業が果たす役割はますます重要になっていると考えられていますが、農林水産物の購入に当たって重視することとして、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つ選んでください。(n=666)

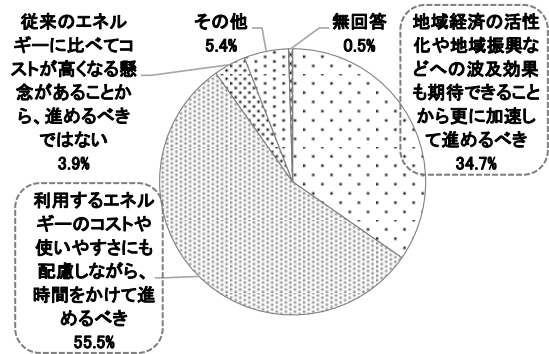
■傾向

・道産、国産へのこだわりは高い傾向にある
 (主な意見)：安全基準を満たすものを選ぶ、家計のため安価な外国産を買わざるを得ない



ゼロカーボン北海道について

問 道では、2050年までに温室効果ガス排出量と森林等による吸収量のバランスが取れ、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現を目標に掲げており、2030年度に、温室効果ガスを2013年度から48%削減し、2050年に実質ゼロにするという高い目標を設定していますが、風力や太陽光・バイオマスなど、道内に豊富に存在する再生可能エネルギー資源の活用について、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。(n=666)



■傾向

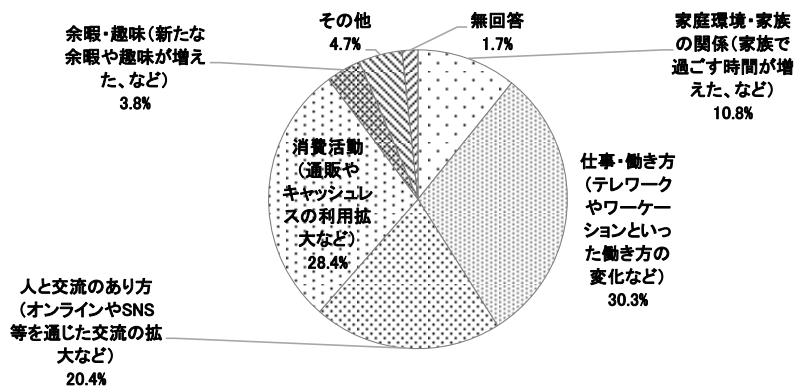
- 再生可能エネルギーの導入を進めるべきとの意見が90%を超えるが、進め方として、“コストや使いやすさに配慮しながら時間をかけて進めるべき”の割合が最も高い
- (主な意見)：長期的視野で自然に配慮した再生可能エネルギーの活用、持続可能性への配慮

新型コロナウイルス感染症の影響について

問 新型コロナウイルス感染症がもたらした生活の変化のうち、収束後においても定着していくと思う変化を1つ選んでください。(n=666)

■傾向

- 働き方や消費活動などが高い割合を占めるほか、様々な項目が挙げられており、コロナ後の社会の変化がいろいろな分野で定着していると考えられる
- (主な意見)：マスク着用や手指消毒などの衛生意識の定着



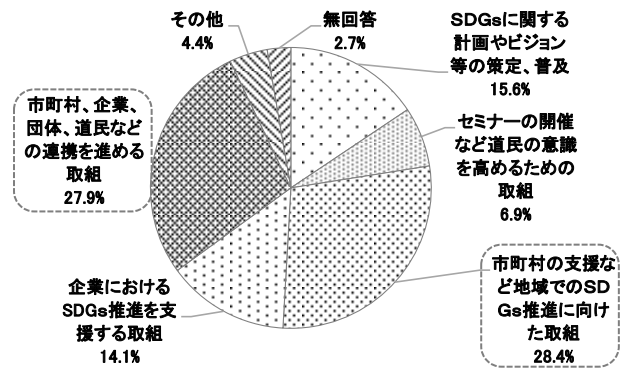
SDGsの推進について

問 北海道全体でSDGsを推進していくに当たって、行政に期待することを1つ選んでください。(n=666)

■傾向

・“市町村への支援”や、“市町村、企業等の連携”を挙げる回答が多く、様々な主体の連携による取組の推進への期待が大きい

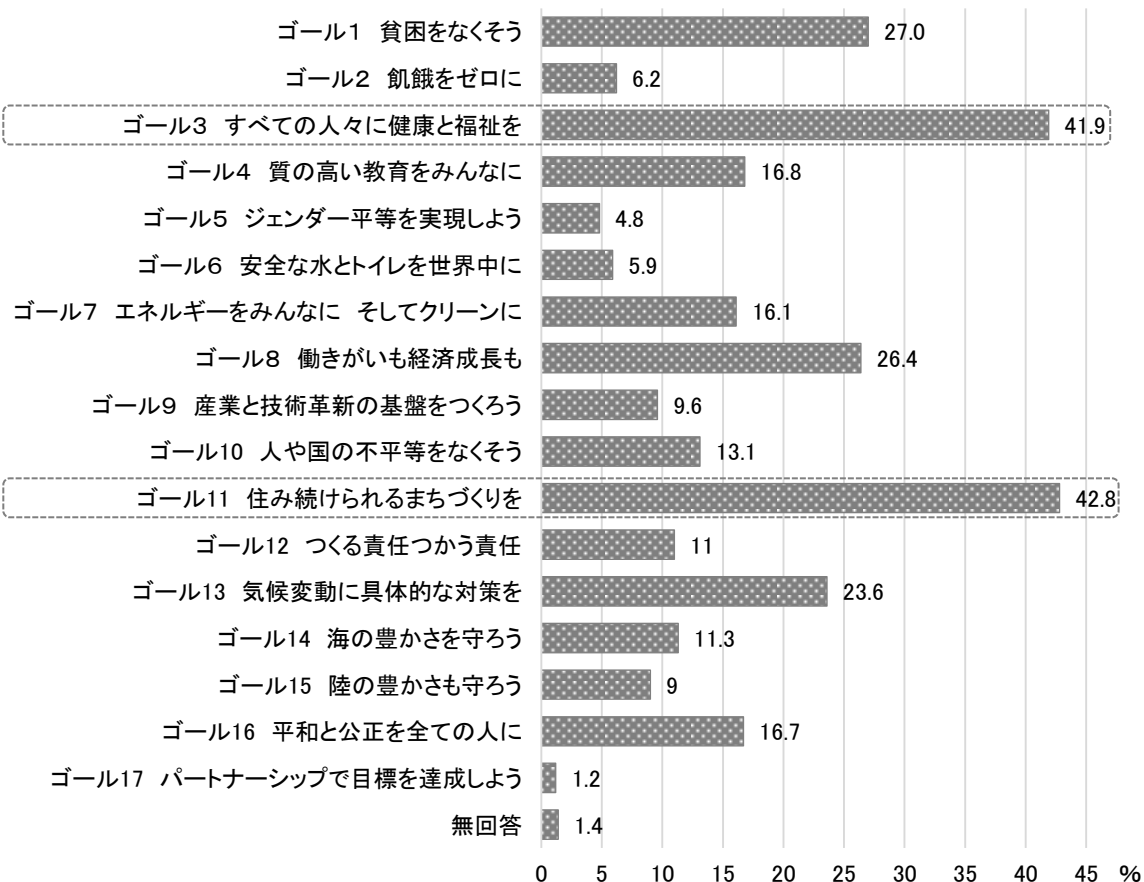
(主な意見)：SDGsの個々の目的や手段についての理解、できることから確実に取り組む



問 北海道内において、特に取り組むべきSDGsの目標は、どの目標と考えますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,895)

■傾向

・“ゴール11 住み続けられるまちづくりを”と“ゴール3 すべての人々に健康と福祉を”がほぼ同程度に高い割合を示している



2. 企業・団体意向調査の結果概要

調査の概要

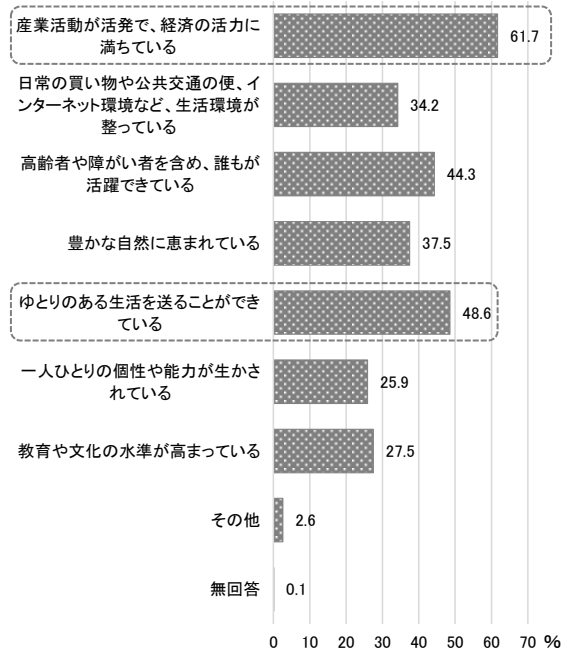
方法：郵送及び簡易申請受付システムによる調査（期間：令和5年(2023年)7～9月）
 対象：道内で活動する企業、団体及びNPO法人 1,932社・団体（人口規模比例配分、無作為抽出）
 回答数：698/1,932(回収率 36.1%) 企業:317/1,138(27.9%), 団体：221/362(61.0%), NPO:160/432(37.0%)
 個々の比率(百分率)は、小数第1位ないし第2位を四捨五入しており、各区分の比率合計が100%にならない場合あり

北海道の姿について

問 北海道がどのような社会であってほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,972)

■傾向

・“経済の活力に満ちている”の割合が最も高く、次いで“ゆとりのある生活を送ることができている”が続いている
 (主な意見)：ゼロカーボン北海道の実現、地方の活性化、日本の食糧基地としての地位確立

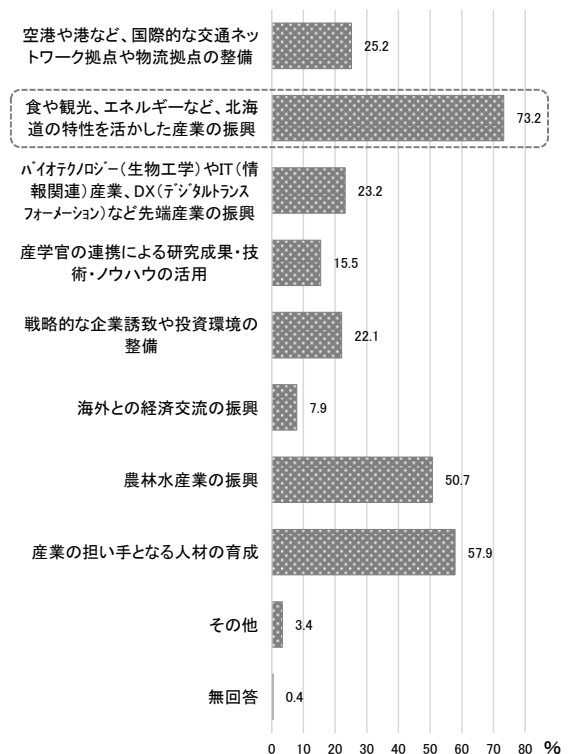


経済・産業の活性化について

問 道内の経済・産業の活性化を図るため、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,951)

■傾向

・“食や観光、エネルギー産業の振興”の割合が最も高く、北海道のポテンシャルを活かした産業への期待が高い
 (主な意見)：社会や経済の基盤を支える環境の保全、経済産業界と教育現場の連携、道産ブランドの強化、鉄道網の維持

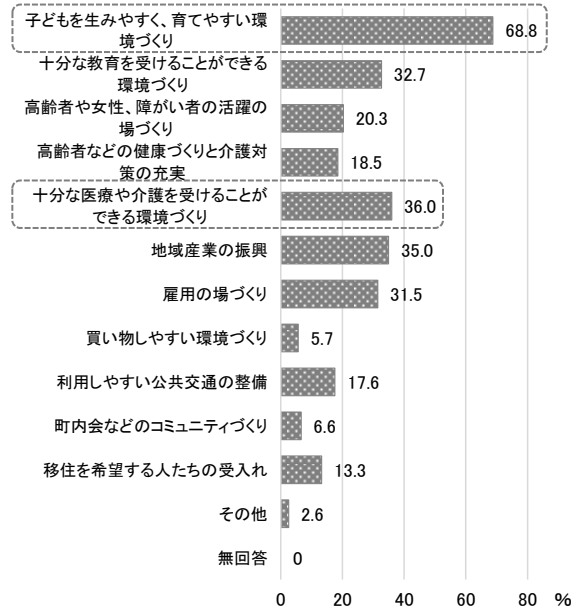


人口減少・少子高齢社会への対応について

問 人口減少・少子高齢化が進行する中、住みよい地域社会を実現していくために、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。
(n=2,014)

■傾向

・“子どもを生きやすく、育てやすい環境”の割合が最も高く、次いで“医療・介護”が続いており、こうした課題を重視する割合が高い
(主な意見):コンパクトシティと産業の集約効率化、地域課題の解決に向けた新たなビジネスの創出

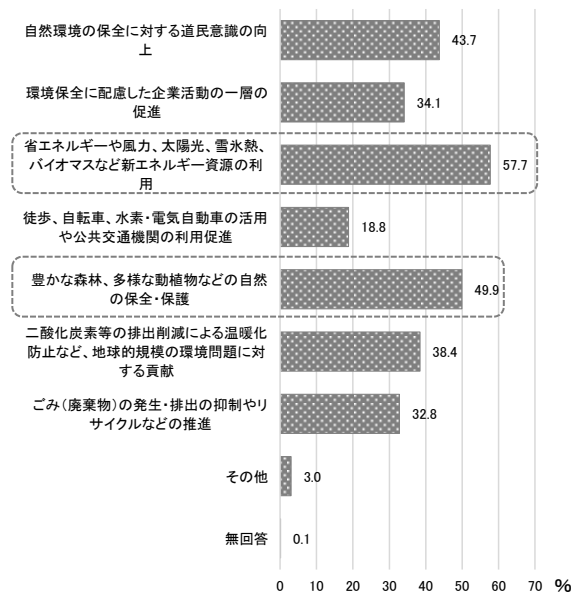


環境にやさしい地域社会について

問 人と自然が共生し、環境と調和した地域社会を構築していくに当たって、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。
(n=1,944)

■傾向

・“新エネルギー利用”の割合が最も高く、次いで“自然の保全・保護”が続いていることから、北海道が有するエネルギー資源への期待や自然環境への意識が高いと考えられる
(主な意見):環境や住民生活などを考慮した自然エネルギーの活用、野生動物との共存と適切な駆除

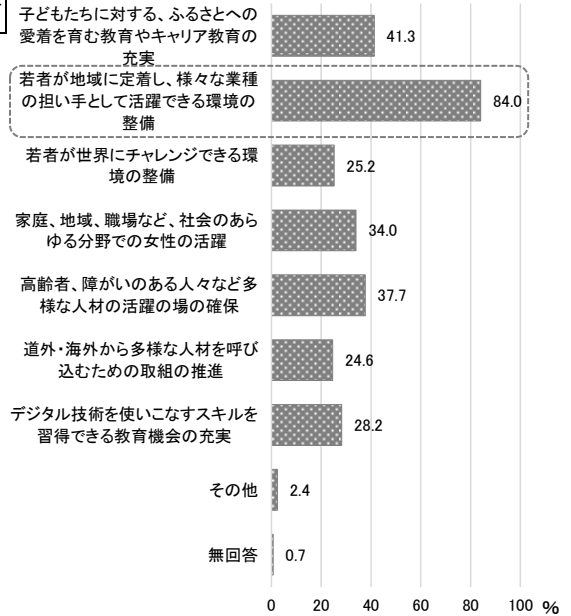


地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保について

問 地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保を図るため、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,941)

■傾向

- ・“若者が地域に定着し、担い手として活躍できる環境の整備”の割合が最も高い
- (主な意見)：人材を安定雇用する体制整備、人材不足の業態への支援、ワークライフバランスへの意識改革

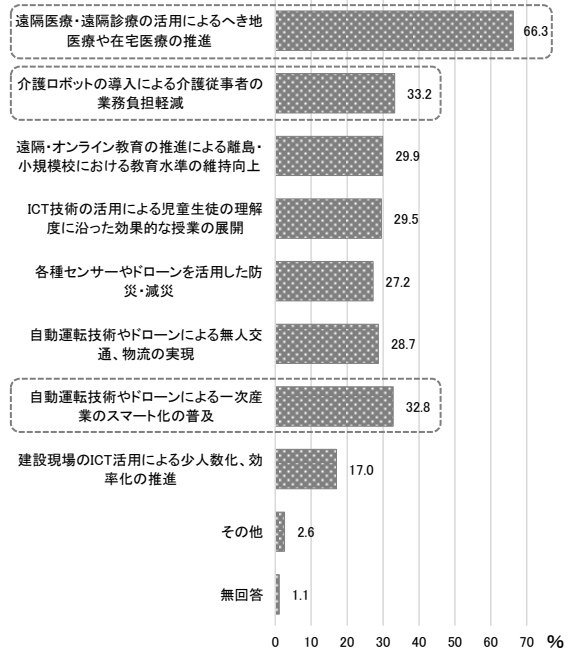


デジタル化について

問 本道では、全国を上回るスピードで急速に進行する人口減少や少子高齢化、広域分散型の社会構造などの課題解決に向けてICTやAIなどといった未来技術を活用した取組を一層進める必要があると考えられます。北海道の課題解決、地域振興に向けて、未来技術の活用がどのような場面で進むべきだと思いますか。次の中から特に進展が必要だと感じる分野を3つまで選んでください。(n=1,874)

■傾向

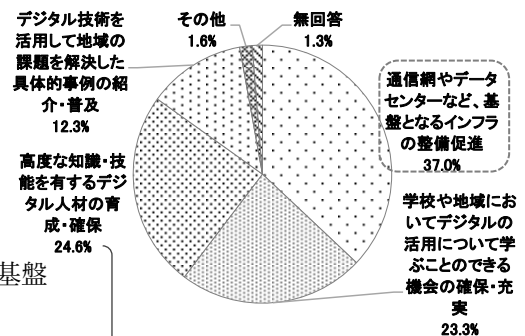
- ・“医療”の割合が最も高く、次いで“介護従事者の業務負担軽減”、“一次産業のスマート化の普及”が続いている
- (主な意見)：未来技術による広域分散型の社会課題解決、官民連携によるAI等のリスク研究



問 デジタル技術（AI、ロボット、遠隔医療など）の活用に向けて、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から1つ選んでください。(n=716)

■傾向

- ・“インフラ整備”の割合が最も高く、デジタル活用に向けた基盤づくりへの関心が高い
- (主な意見)：デジタル化・DX化への補助金の充実、施策へのデジタル技術の活用

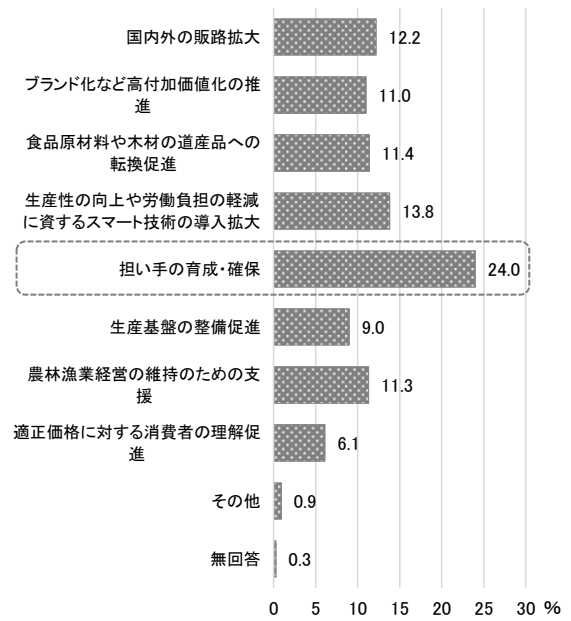


農林水産業について

問 世界の食料需給等を巡るリスクが顕在化する中、食料安全保障への関心が高まっており、本道の農林水産業が果たす役割はますます重要になっています。農林水産業の振興に向け、本道のポテンシャルを最大限に発揮するために、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,949)

■傾向

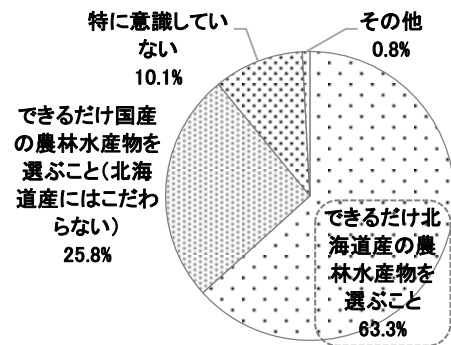
- ・“担い手の育成・確保”の割合が最も高く、担い手不足への懸念が大きいと考えられる
- (主な意見)：農産物輸送手段の維持や新たな輸送手段の開拓、農林水産物のブランド力強化



問 農林水産物を取り扱っている企業・団体・NPOの皆様にお伺いします。農林水産物の購入に当たって重視することとして、貴社（貴団体）の考えに最も近いものを次の中から1つ選んでください。(n=249)※無回答を除く

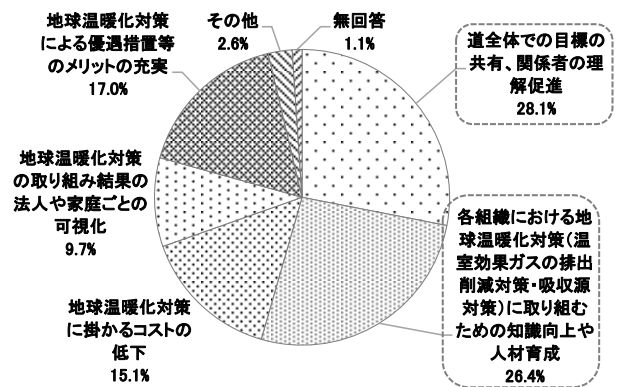
■傾向

- ・道産へのこだわりが高い傾向がある



ゼロカーボン北海道について

問 道では、2050年までに温室効果ガス排出量と森林等による吸収量のバランスが取れ、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現を目標に掲げており、2030年度に、温室効果ガスを2013年度から48%削減し、2050年に実質ゼロにするという高い目標を設定しています。「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて道民・企業等のみなさまが取り組むべきこととしてもっとも重要だと思うものを、次の中から1つ選んでください。(n=720)

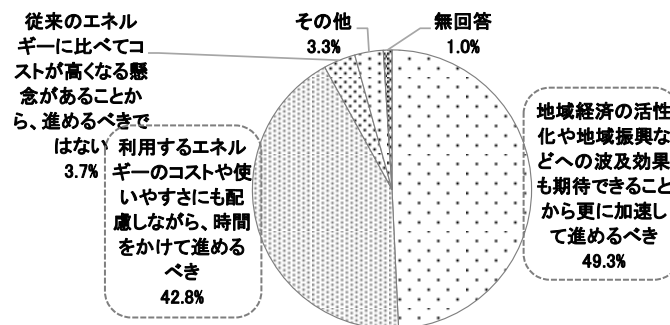


■傾向

・“目標の共有、関係者の理解促進”、“知識向上や人材育成”の割合が高い

(主な意見)：ゼロカーボンに繋がる森林再生、対策に係る諸費用に対する国の補助及び支援の強化、カーボン削減技術への投資

問 風力や太陽光・バイオマスなど、道内に豊富に存在する再生可能エネルギー資源の活用について、貴社(貴団体)の考えにもっとも近いものを1つ選んでください。(n=699)



■傾向

・再生可能エネルギーの導入に前向きな回答が90%以上となっているが、進め方としては、“更に加速すべき”が“コスト等に配慮しながら時間をかけて進めるべき”をやや上回っている。

(主な意見)：地域の自然環境への配慮と調和、風力・太陽光・バイオマス以外の安定した資源の検討

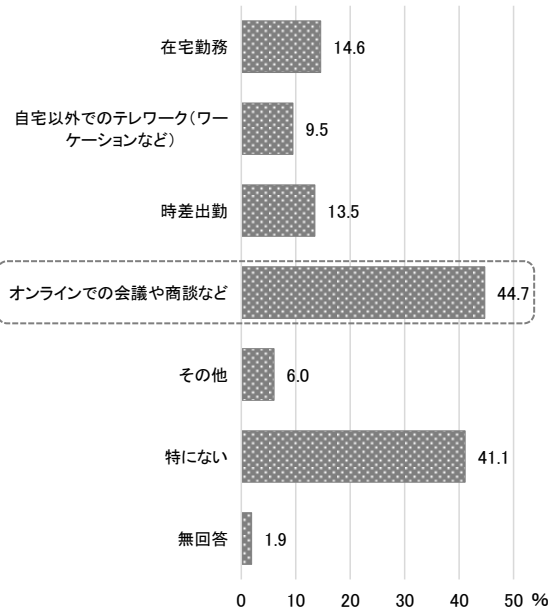
新型コロナウイルス感染症の影響について

問 新型コロナウイルス感染症の収束後も貴社（貴団体）で継続していこうと考えている働き方の変化はありますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。（n=916）

■傾向

・「在宅勤務」や「時差出勤」は「オンラインでの会議や商談など」ほど普及していない。また、「特にない」とする回答も多い

（主な意見）：感染対策の徹底（マスク着用、手指消毒、換気）、ICT環境整備の促進

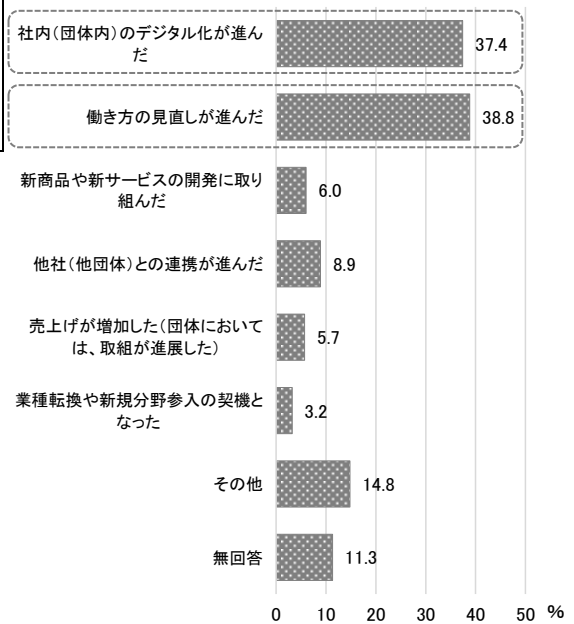


問 新型コロナウイルス感染症への対応を行う中で、貴社（貴団体）にとってよかったと思える面はありますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。（n=880）

■傾向

・“デジタル化”と“働き方の見直し”がほぼ同程度となっている

（主な意見）：選択肢の中になかった“特によかったことはない”という回答が多数あったほか、オンライン研修による省力化、プライベートな時間の大切さ



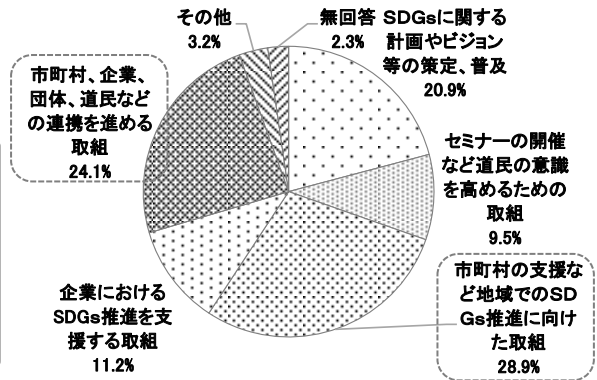
SDGsの推進について

問 北海道全体でSDGsを推進していくに当たって、行政に期待することを1つ選んでください。(n=698)

■傾向

・“市町村への支援”や、“市町村、企業等の連携”を挙げる回答が多く、様々な主体の連携による取組の推進への期待が大きい

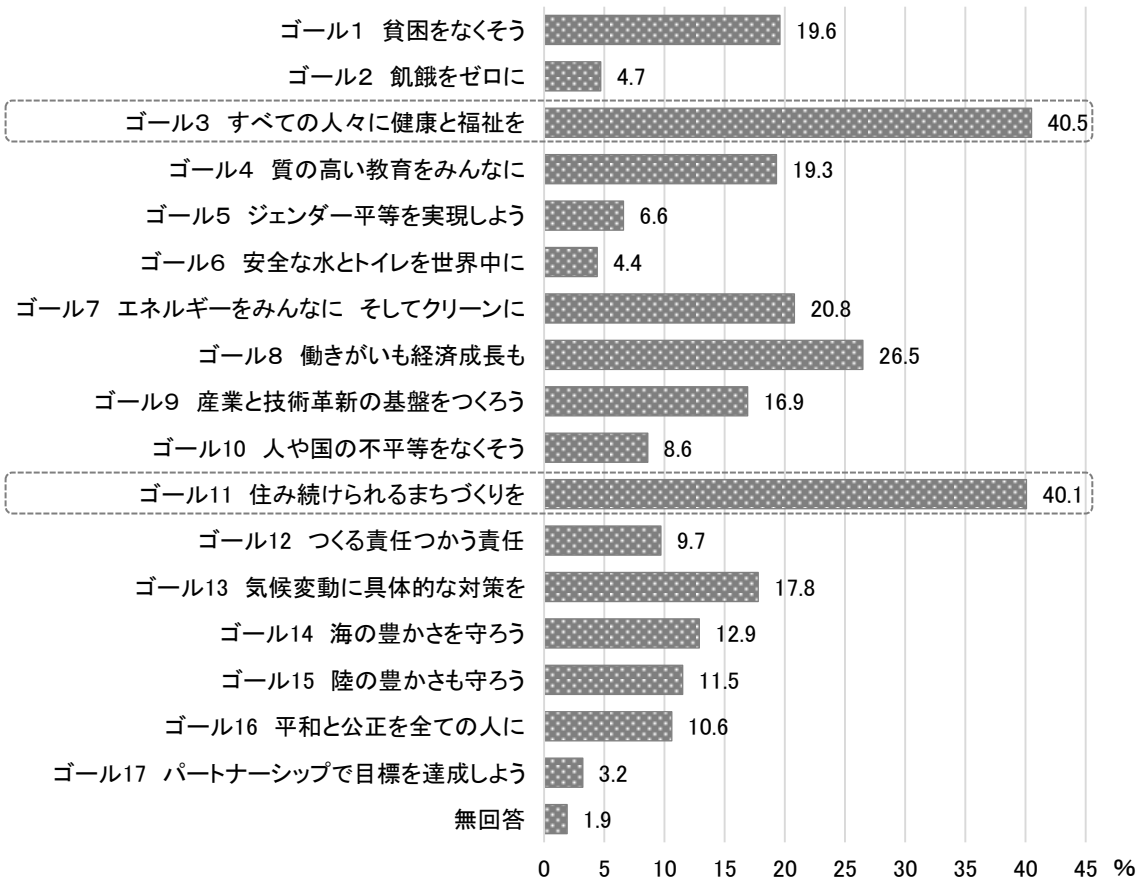
(主な意見)：SDGsの教育啓発、具体的に何を実施すればいいかをわかりやすくする



問 北海道内において、特に取り組むべきSDGsの目標は、どの目標と考えますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,924)

■傾向

・“ゴール3 すべての人々に健康と福祉を”と“ゴール11 住み続けられるまちづくりを”とがほぼ同程度に高い割合を示している



3. 高校生・大学生アンケート調査の結果概要

調査の概要

方法：学校訪問によるアンケート調査 ※グループディスカッションと併せて実施
 (期間：令和5年(2023年)7～10月)

対象：道内の高校生及び大学生

回答数 1,338 名

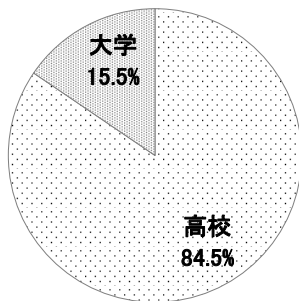
高校：1,106 人 (公立：各振興局 1～2 校、23 校、私立：石狩管内 2 校、計 25 校)

大学：232 人 (6 連携地域 1～2 校、計 7 校)

個々の比率(百分率)は、小数第 1 位ないし第 2 位を四捨五入しており、各区分の比率合計が 100%にならない場合あり

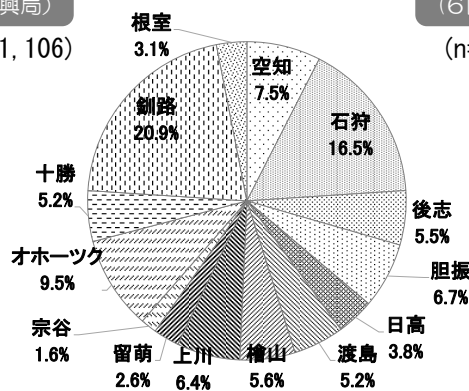
アンケート対象の属性(n=1,338)

対象



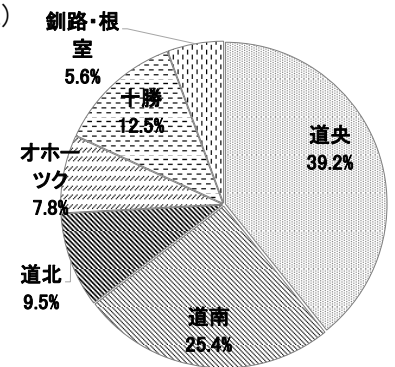
高校所在地
(振興局)

(n=1,106)



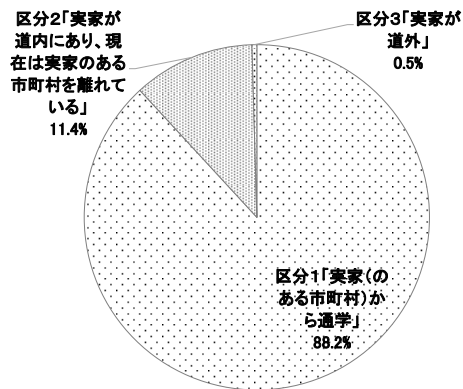
大学所在地
(6 圏域)

(n=232)



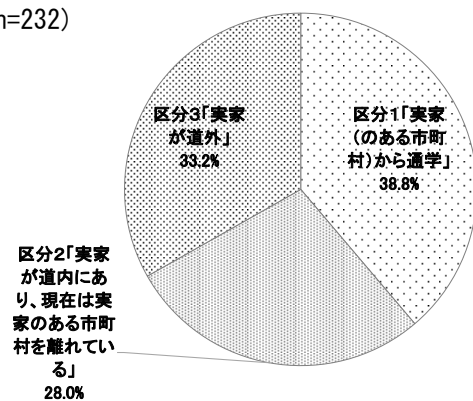
高校生の住所区分

(n=1,106)



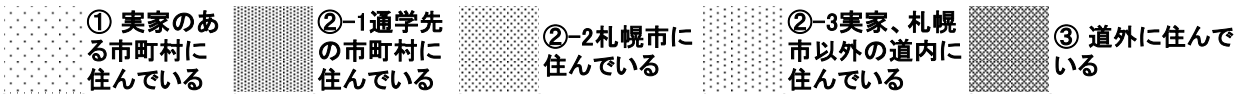
大学生の住所区分

(n=232)



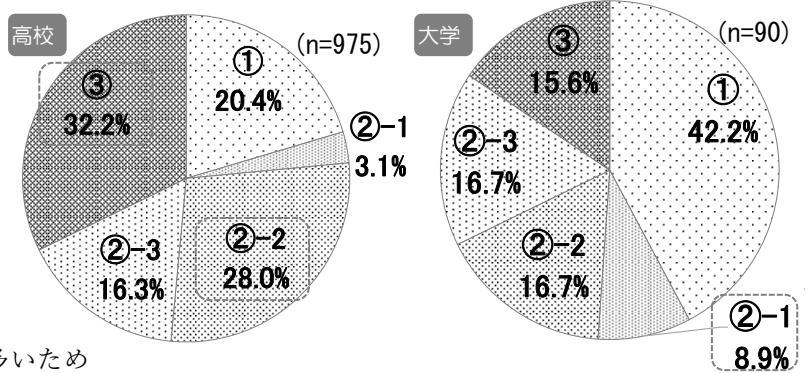
問1. あなたは、10年後にどこで暮らしていると思いますか。あなたが当てはまる以下の区分から1つ選んで○を付け、その理由を記載してください。(n=1,038)

【区分1「実家（のある市町村）から通学している方」】



■傾向

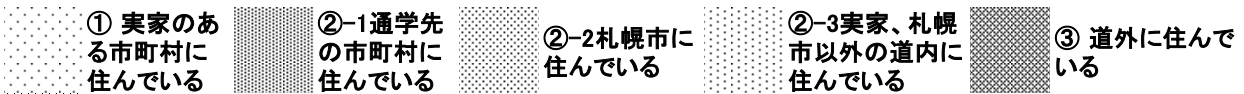
- ・高校生の3割強が「道外に住んでいる」と回答
- ・高校生の3割弱、大学生の2割弱が「札幌市に住んでいる」と回答



■主な理由

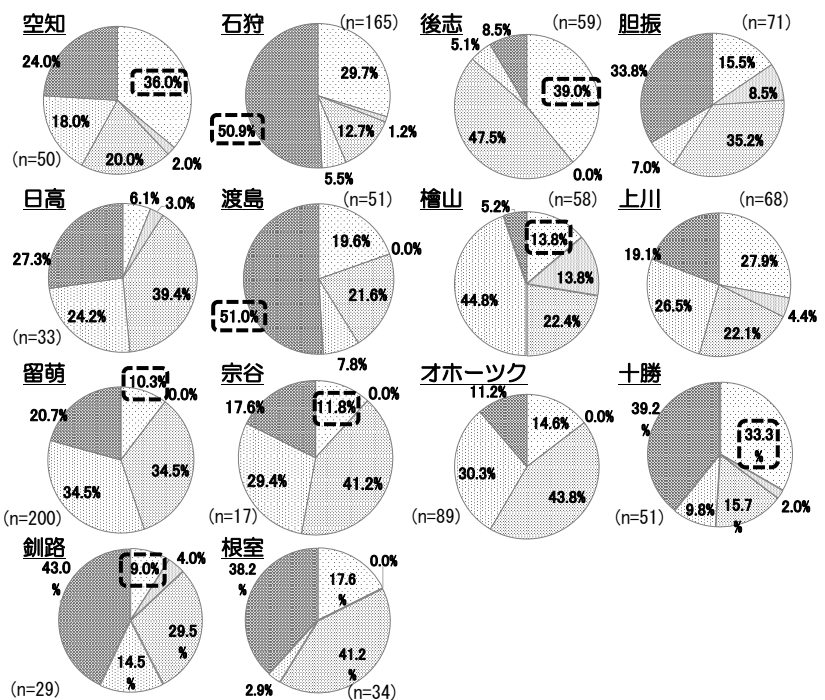
- ・①：地元が好きだから
- ・②-1：地元よりも就職先の選択肢が多いため
- ・②-2：札幌の大学に進学したいと考えているため
- ・②-3：実家の近くで、何かあったら帰ることができる比較的大きな街に就職する予定であるため
- ・③：道外で働くことに憧れがあるため

【区分1「実家（のある市町村）から通学している方」】※高校所在振興局別

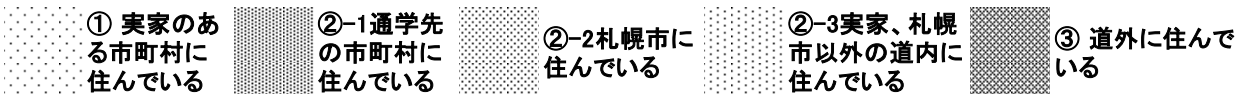


■傾向

- ・石狩、渡島では、5割を超える生徒が「道外に住んでいる」と回答
- ・空知、後志は4割弱、十勝は3割強の生徒が、「実家のある市町村に住んでいる」と回答
- ・檜山、留萌、宗谷、釧路では、1割程度が「実家のある市町村に住んでいる」と回答

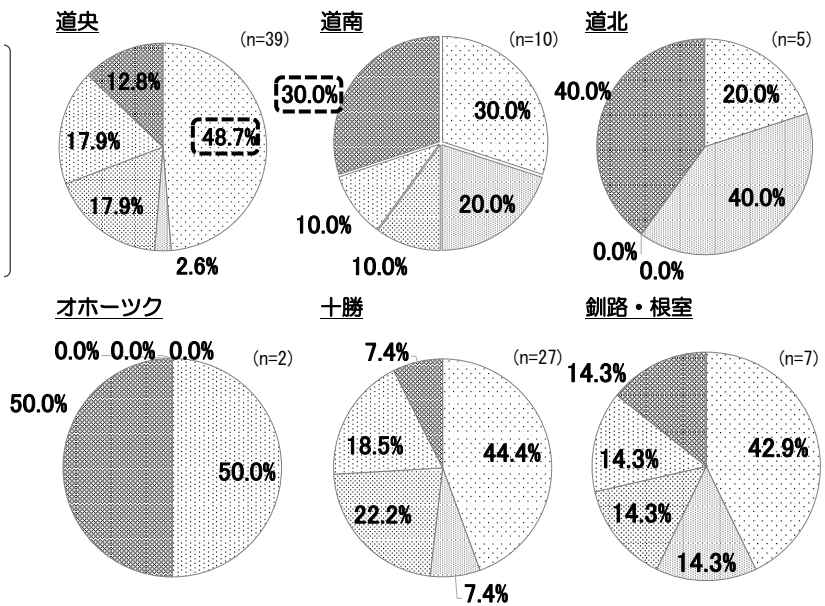


【区分1「実家（のある市町村）から通学している方」】※大学所在圏域別

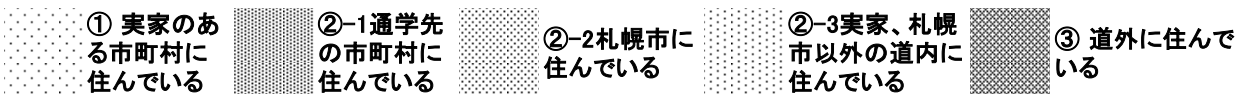


■傾向

- ・道央では、5割弱が「実家のある市町村に住んでいる」と回答
- ・道南では、3割が、「道外に住んでいる」と回答



区分2「実家が道内にあり、現在は実家のある市町村を離れている方」

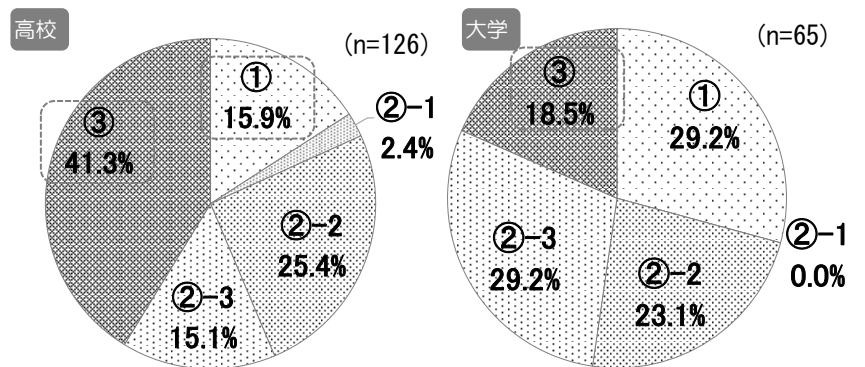


■傾向

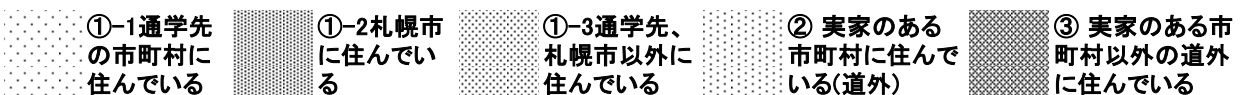
- ・高校生の約4割、大学生の約2割が「道外に住んでいる」と回答
- ・一方、高校生の15%が「実家のある市町村に住んでいる」と回答

■主な理由

- ・②-2：札幌市が道内で一番活気があるため
- ・②-3：北海道内であればこだわりがないため



区分3「実家が道外にある方」

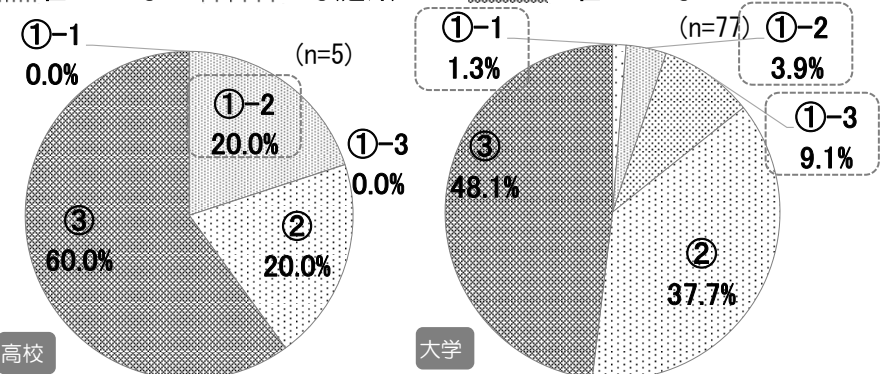


■傾向

- ・高校生の2割、大学生の1割強が「道内に住んでいる」と回答

■主な理由

- ・①-3：北海道で働くために道内の大学に入学したため



問2. あなたが、今、学び、暮らしている地域で重要だと思うことを次の中から最大3つまで選んで○を付け、その理由を記載してください。(n=3,623)

【設問】

- 暮らし全般 物価・地価、住環境 など
- 地域社会・経済 まちに活気やにぎわいがあること、日常の買い物環境 など
- 環境 自然環境・資源のリサイクル など
- 教育 充実した教育を受けることができること など
- 医療 必要な医療をいつでも受けることができること など
- 子育て 安心して出産や子育てができること など
- 福祉 高齢者や障がいのある方が地域で生き生きと生活できる環境 など
- 仕事 働く場が確保されていること、希望する職業で働けること、労働環境 など
- 防災 地震や水害などへの防災対策 など
- 安全 犯罪・交通事故の心配がなく安心して生活できること など
- 交通・道路 通勤・通学や買い物への交通の便、行きたい場所への移動に困らないことなど
- 情報・デジタル インターネットの使用環境が整っていること、個人情報を守られていること など
- その他 具体的に記載してください

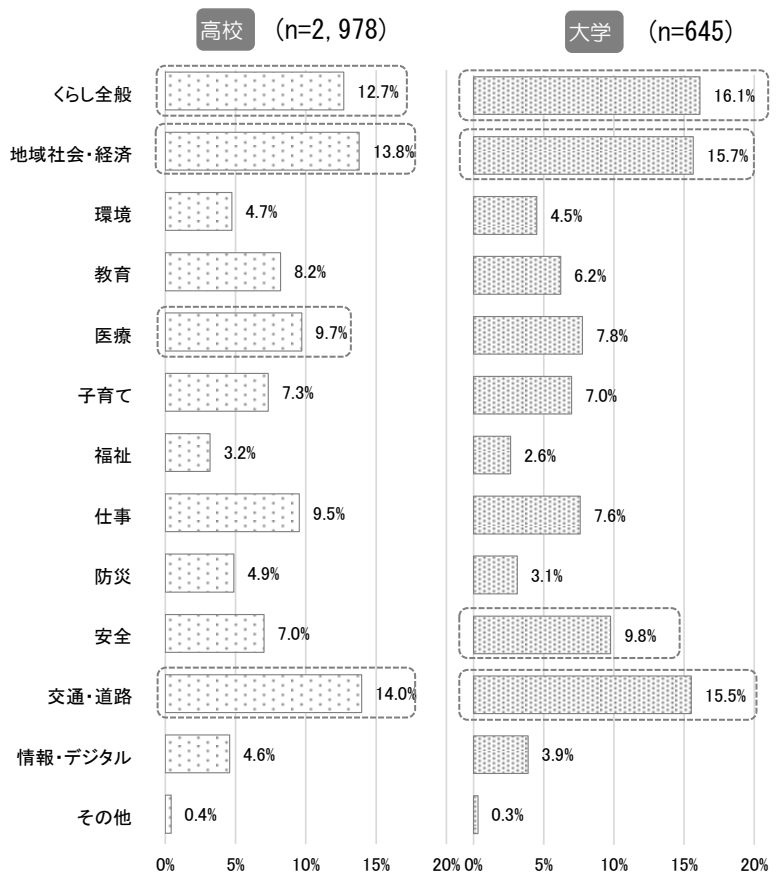
【区分毎】

■傾向

・高校生、大学生とも、暮らし全般、地域社会・経済、交通・道路の項目が大きい
 ・4番目に多い項目は、高校生が医療、大学生が安全となっている

■主な理由

・〔交通・道路〕公共交通がほとんどなく、移動が非常に不便であるため
 ・〔仕事〕働く場が確保されていると子育て環境も安定するため
 ・〔地域社会・経済〕人が集まるためには街に活気や賑わいが必要であるため
 ・〔教育〕教育機関がないと進学で今住んでいる市町村から出なければいけないため



※高校所在振興局別

■傾向

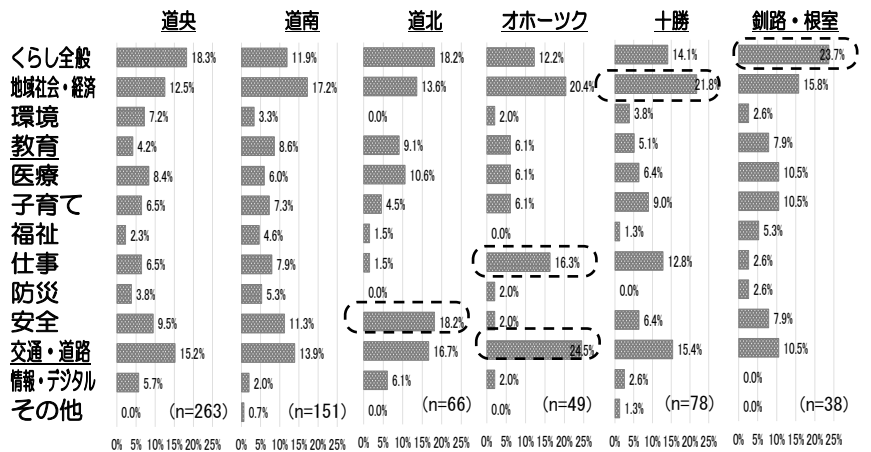
- ・多くの振興局で交通・道路が高くなっている(空知16.9%、宗谷19.6%,上川19.5%,胆振16.8%,根室16.5%)
- ・渡島は教育(17.9%)、オホーツクは医療(16.2%)、宗谷は情報・デジタル(13.7%)が高い
- ・釧路、根室は他地域と比較して防災の割合が高くなっており(釧路10.5%,根室8.2%)、発生が切迫するとされている日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対策を意識している生徒が多いことがうかがえる



※大学所在圏域別

■傾向

- ・多くの圏域で暮らし全般、地域社会・経済、交通・道路が高くなっている
- ・道北は安全(18.2%)、オホーツクは仕事(16.3%)と交通・道路(24.5%)、十勝は、地域社会・経済(21.8%)、釧路・根室は暮らし全般(23.7%)が高い



問3. 次の中から、あなたが、北海道の良いところ・優れているところ・価値（将来に引継いでいくべきもの）だと思うものを最大3つまで選んで○を付け、その理由を記載してください。(n=3,378)

【設問】

- 広大な土地 広々とした空間、大きな工場等を誘致できる など
- 冷涼な気候 本州等に比べ涼しい、良質な雪があり観光客等が集まる など
- 地理的特性 アジア等との近さ、本州等と距離があり同時被災リスクが低い など
- 自然環境 知床世界自然遺産、多くの自然公園 など
- 食料供給力 豊富な農水産物、食料自給率が高い など
- エネルギー・資源 太陽光・風力など再生可能エネルギーや水資源・森林資源が豊富 など
- 多様な地域 自然・歴史・文化・産業等が異なる地域が存在 など
- 歴史・文化 アイヌ文化、北海道・北東北の縄文遺跡群、まんが・アニメ、スポーツ など
- その他 具体的に記載してください

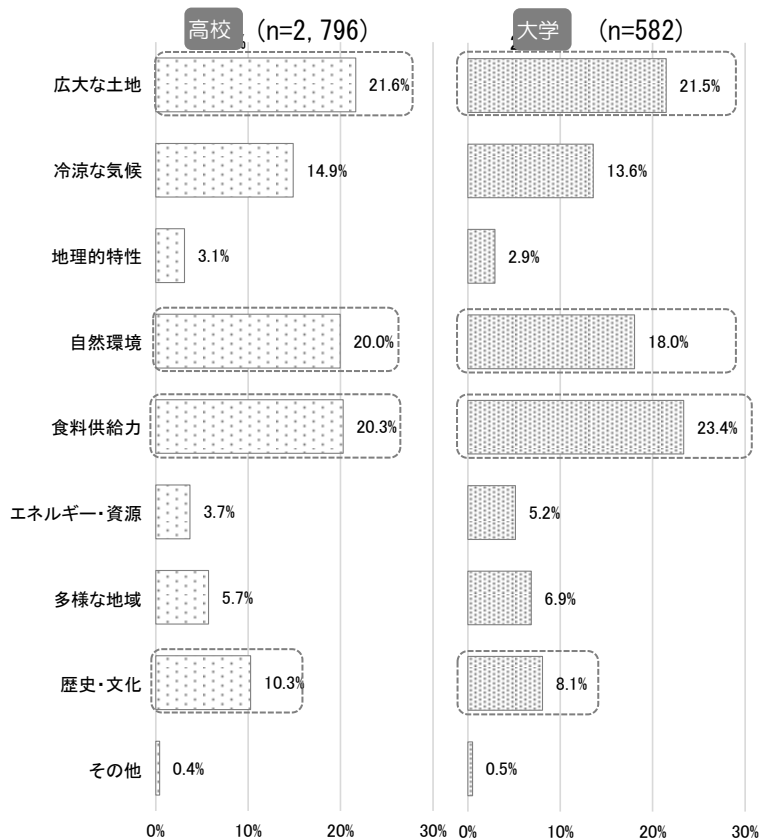
【区分毎】

■傾向

- ・高校生・大学生とも、広大な土地、自然環境、食料供給力を選択した割合が高い
- ・また、高校生・大学生とも、歴史・文化を選択した割合が比較的高い

■主な理由

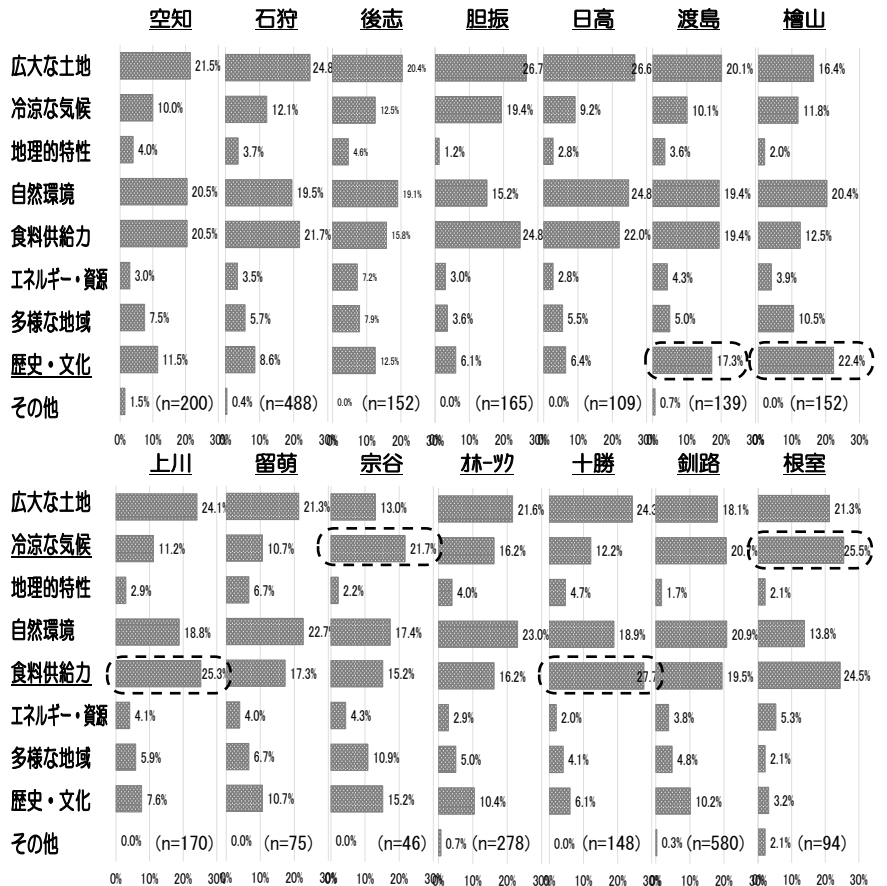
- ・〔食料供給力〕北海道は日本の食糧庫であり、ブランド力もあるため
- ・〔広大な土地〕広大な土地があるからこそ、再エネや企業誘致を進められるため
- ・〔自然環境〕自然環境は日本の中にはない良さがあり、素晴らしい観光資源であるため



※高校所在振興局別

■傾向

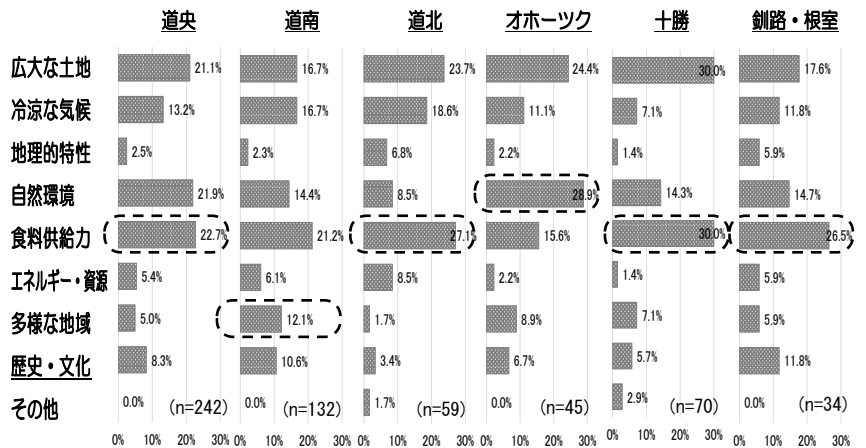
・宗谷、根室は冷涼な気候、上川、十勝は食料供給力、渡島、檜山は歴史・文化が高くなっており、各地域の特性が反映されている



※大学所在圏域別

■傾向

・オホーツクは自然環境、道央、道北、十勝、釧路・根室は食料供給力、道南は多様な地域が他の地域と比べ高くなっており、各地域の特性が反映されている



4. 地域住民等意見聴取の結果概要

意見聴取の概要

方 法：道職員訪問による意見聴取（期間：令和5年(2023年)7～10月）

対 象：各振興局地域の一次産業の従事者・団体、商工会議所・商工会、観光団体、
医療・介護福祉等の役職者・職員、地域づくりを担っている方々 など

空知

〈地域住民〉

■地域の課題

- 地域農業における女性活躍の場の拡大が必要である。
- 地元では20年後に人口は半分になると予測され、都市部の工場では他業種と競合し、人材の確保が難しいことから、会社を継続できる人材が確保できるか不安である。
- 看護師不足が深刻であり、看護体制維持のため病棟を閉鎖する診療科が生じている。
- 道が設定する連携地域と実際の生活圏が一致していない状況であり、新しい生活圏や振興局を越えた単位で様々なビジョンを考える必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 外国人は北海道の食べ物、特に刺身や寿司が魅力的という声が多いことから、生食ができない国に向け、北海道として食の安全性をもっとPRするとよい。
- 環境に配慮した取組を評価され、世界的企業からの受注を相次いで受けることができたことから、ゼロカーボン推進は木材産業にとって追い風であると感じている。
- 地域が価値と思えるものを育てることが大事であり、地域への誇りと愛着があれば解決できることも多いことから、シビックプライドも重要である。

〈市町村〉

■地域の課題

- 地域おこし協力隊の応募がない状況が続いており、受入れのためより魅力のある環境を作るなどして、今後も活用していきたい。
- コロナ禍の影響で米の定期便を選択するリピーターが増え、寄付額の増加につながったが、外出機会が増える中で、これまでの寄付額が維持できるか危惧している。

■地域の強み・今後の方向性

- 地域おこし協力隊は関係人口の創出につながるなど、良い制度であると認識しており、この制度を活用して移住定住者の増加につなげていきたい。
- ふるさと納税に力を入れており、ものづくりの町の強みを活かした返礼品を揃えPRした結果、件数、金額とも伸びており、特にリピーターの力が大きいと考えている。

石狩

〈地域住民〉

■地域の課題

- ゼロカーボン北海道の実現に向け、個人の努力では対応できず道にしかできないこともあるので、道には実現に向けた仕組みづくりと地域・団体支援に取り組んでもらいたい。
- 勤務シフトがあるため家庭と仕事の両立が負担となる、職員自身の子どもは勤務先の園に預けられないなどの理由から保育職員の離職が続き、保育士の不足につながっている。
- 冬の災害発生時に暖がとれることなど、災害時に設備が整った避難場所の確保や、海が近いため津波発生時に高齢者を車で避難させる仕組みが必要である。

■地域の強み・今後の方向性

- 北海道は他の都府県にない大規模農業によって効率的に農業を進めており、日本の食糧庫として機能を発揮することができる。
- 農業体験などを通じ農業の喜びや魅力を伝えることにより、農業に興味を持つ人の増加が期待できる。
- NPOはそれぞれの活動を通じ行政やビジネスで解決できない小さな問題を解決しており、人口減少、少子高齢化が進む社会の中で益々重要になっている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 食料安全保障の観点から基幹産業である農業の振興、農業の担い手確保が重要であることから、若者が農業に参加しやすい体制づくりが課題である。
- 市内人口の1割を大学生が占める特性を活かし、地域イベントを通じ学生と住民との交流が行われているが、若者の地元定着の直接的な効果が形として見えていない。
- 北海道が持つ資源を活かし、新たな人の流れを取り込む観光地域づくりが重要であり、そのためにも交通インフラの整備や国土強靱化の取組を推進する必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 再生可能エネルギーのポテンシャルを活かし、地域で作る電気を事業者に供給する「地産地活」の取組を推進し、企業集積による脱炭素社会の実現に向け取組を加速させる。
- ラピダス社立地の影響として、新たなサプライチェーンの構築や市内企業の取引・雇用機会の拡大、オフィス需要の高まりなど多岐にわたり、官民連携の取組を進める必要がある。
- 地域課題解決に寄与することを目的に、市内の大学に「地域創造研究センター」が設立されたところであり、地域資源を活かした政策提案などを期待している。

後志

〈地域住民〉

■地域の課題

- 観光は地域が生き抜くポテンシャルであり、インバウンドの増加やアドベンチャートラベルなど体験型の新しい魅力づくりを進める必要がある。
- 欧米では有料のガイドを使う習慣があるが、日本人はお金を払ってガイドを依頼する習慣がないことから、ガイドの料金設定が低く、専門とすることが難しい。
- 人手不足の中、外国人に頼る前に、移住者や引退した高齢者など、まずは国内、地元で様々な人材活用に取り組むべきである。

■地域の強み・今後の方向性

- 後志地域はワイン用ブドウ栽培などに新規参入しやすい環境が整っており、参入に当たりしっかり知識習得し、参入者同士のつながりも深いなど、活気を感じる。
- 外国人は「地産地消」を好むことから、農産物も海産物もある後志各地域の産品をニセコに集め、後志全域の利益となることを目指している。
- 厳しい自然の中で知恵や工夫で独自の文化を築いてきた素晴らしさ、空港や大都市圏からのアクセス、一次産業基盤などのポテンシャルを活かした地域づくりを行えるとよい。
- 新幹線の札幌開通で人の流れが大きく変わると考えており、軽井沢などに行っている観光客が後志に来ることを期待している。

〈市町村〉

■地域の課題

- ゼロカーボンの推進に向け、住民一人ひとりのライフスタイルの変革が重要であることから、行政だけではなく地域の合意形成のもと、地域が一体となって取り組む必要がある。
- 2024年度からの働き方改革の影響で、物流などに影響が出ることを危惧している。
- ニセコエリアでのタクシー不足が慢性化し、地域住民の足の確保に支障が出ている。

■地域の強み・今後の方向性

- ウニ養殖で餌となる昆布を、廃棄物として処理されていたウニ殻を原料とした肥料で養育できることがわかり、循環型の再生産システムとしての活用を検討している。
- ゼロカーボンに向けては、CO₂排出量など見える化した上で、住民自らがどのように取り組む必要があるのかを行政と住民と一緒に考えながら取組を進めることとしている。
- 住民が住宅リフォームに合わせ太陽光パネルや再エネ設備を設置する場合に補助を行うほか、移住者が取得した住宅がZEHに該当する場合に助成を行うなどの取組を実施している。

胆振

〈地域住民〉

■地域の課題

- ・ 漁業をはじめ様々な産業で外国人労働者を採用しており、日本人以上にコストがかかるとしても外国人労働者に頼らないと産業が維持できない状況である。
- ・ 生活に余裕があると苫小牧から札幌に通う人が多いが、地元で十分な教育を受けられないことは課題である。
- ・ 介護事業では生産人口の減少により労働者不足や事業者の統廃合・廃業が進むと考えられることから、今後、事業の安定と雇用としての魅力度を上げることが課題である。
- ・ 北海道は女性の正規雇用の割合が低い点で経済的な損失が大きいと考えており、様々な人材が生きがいを持って働ける場を提供するためにも、子育てや教育環境の整備は重要。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 地域の強みは「食」が圧倒的であり、東京のシェフが食材の豊かに感動していたほど。このほか、火山を含めた自然が素晴らしい。
- ・ 脱炭素を教育旅行の体験メニューに取り込むことで観光振興につながる可能性がある。
- ・ ラピダスの千歳進出に関し、半導体産業は地元になじみのない産業なので影響を注視するとともに、地域への波及効果を期待している。
- ・ 持続可能な地域づくりのため、町の資源を活用し、加工などを地域で取り込み、価値を生み出す場をつくることにより、住民がいい町だと思える取組を進めたい。

〈市町村〉

■地域の課題

- ・ 炭鉄港をテーマとする、あるいはゼロカーボンの取組などを教育内容に入れ込み、胆振管内を周遊できるような取組についても道の協力をお願いしたい。
- ・ 広域での観光振興について、発信力の点では市町村単体で発信するのと北海道として発信するのでは違うので、北海道の助力をお願いしたい。
- ・ 有珠山を抱えていることから、各地域で災害に対する体制整備を進めるとともに、北海道や気象台など関係機関、市町村間の広域的な連携強化が必要である。
- ・ ウポポイについては、アイヌ文化発信の拠点としてより多くの方に来訪していただけるよう、管内自治体とも緊密に連携し、政府目標の達成に向け取組を進める。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 環境制御型農業の実践などにより農業によるカーボンニュートラルの実現を目指した取組を進めており、農業の様々な形を地域から発信できることを期待している。
- ・ ラピダスの千歳進出を契機に、観光や食材提供などの視点で関われる可能性がある。
- ・ ラピダスの千歳進出を契機とした半導体産業の振興やデータセンターの誘致などのチャンスを捉え、道内高専の卒業生が地元でチャレンジできることを期待している。
- ・ ラピダスの千歳進出を見据え、道路や居住環境の整備に加え、北海道の住みやすさや子育て環境の良さなどのPRといったソフト対策にも早期に取りかかるべきである。

日高

〈地域住民〉

■地域の課題

- ジオパークは世界遺産のような知名度がなく観光振興や地域振興に生かし切れていないため、ジオパークの認知度を高める必要がある。
- 千歳市へのラピダス進出により地域の技術者が流出しており、管内建設業では今後、人件費の上昇と人手不足が生じ仕事を受注できない恐れもある。
- 地域の軽種馬関連業では外国人が就労しているが、英語での意思疎通が難しいなど言語の問題を抱えていることから、外国人の就労にあたり、行政の支援が必要。

■地域の強み・今後の方向性

- 3Kと言われる建設業のイメージを払拭し、特に女性職員の採用を積極的に進めたいと考え、労働環境を含め女性が働きやすくなるよう配慮し、女性職員採用につながった。
- スマホゲームの効果で競馬ファンに加えゲームのファンも訪れるようになったほか、過去の名馬が再び注目されており、こうした地域資源の掘り起こしに期待している。
- 人手不足の克服のためDX化を進め、外国語対応や人の出入りの分析、避難所の掲載などをデジタルマップ上で行っており、今後はAIアバターでの観光案内も実施したい。

〈市町村〉

■地域の課題

- 地域の発展に欠かせない一次産業の後継者や継承者の確保のため、家業を継ぎやすい環境づくりに加え、第三者でもスムーズに産業を継承できる環境の整備が重要である。
- 仕事がないから札幌へ行くという話をよく聞くが、漁業や建築業などで人材不足が生じるなど地元には仕事はあることから、求職と求人とのマッチングがうまくいっていない。
- 地震による津波発生、大雨や越波により国道の通行止めが発生し、地域住民や観光客などへの影響が懸念されることから、防災・減災対応に向けた道の協力をお願いしたい。
- 様々なインフラ整備・改修は重要な課題であり、そうした事業に必要な役所や民間の技術者が不足している問題は、地域だけでなく北海道全体で対応策を考える必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- アポイ岳は自然や学術的価値など、地域にとっての大きな強みであり、観光振興や教育活動に活用し、外貨獲得につなげていきたい。
- 日高山脈襟裳国定公園の国立公園化は地域振興のチャンスであり、外部からの人の流れを作る方策を検討している。

渡島

〈地域住民〉

■地域の課題

- 若年層の定着のため、この地域で働いても良いと考える職種や職場環境が不可欠であり、地元の企業が元気でなければ雇用が生まれず、雇用が生まれない地域に人は残らない。
- 地域の学校が介護の専門課程を廃止していることから、民間だけではなく、行政として地域福祉を担う人材を育成することが必要である。
- 大雨の頻度増加など北海道の気候が変化中、住民の危機意識をどう向上させるかが課題である。
- 交流人口の増加により経済効果が生まれることを期待しており、災害に強い道路や通信環境の整備、交通手段の確保などのインフラ整備をお願いしたい。

■地域の強み・今後の方向性

- 湯の川温泉は空港や新幹線からレンタカーやタクシーを利用したアクセスなど、全国的にみても立地が良いことから、この強みを観光振興に活かしていきたい。
- 新幹線開通後の新幹線利用客を取りこぼさず、取り込むことが重要である。
- 新幹線の札幌延伸により道内移動の利便性が高まり、新たな需要につながることを期待している。
- 地元の大学生と町との関わりが増え、学生が地元の祭りを手伝ってくれるなど、若い学生の活動により活気が生まれており、地域としても大変有難く感じている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 今後10年間で人材の確保や育成が課題となることから、地域で将来を見据えた計画的な人材育成とまちづくり、チャンスを活かした施策が必要である。
- 道南を今以上に一つにするため、道南地域の市民・町民に道南のメンバーの一人なのだという意識を持ってもらうことが必要であり、道南地域を大切に思い守る人材を道南全体で育成することができないか。

■地域の強み・今後の方向性

- 道南地域はワイン産地に加え海産物や農産物も豊富であるため、ワイナリーを巡る旅行商品の開発やイベントの開催などを通じ、道南全体の関係・交流人口の拡大を図ることができる。
- 新幹線札幌開業を見据え、観光の取組を進めるべきと考えている。

檜山

〈地域住民〉

■地域の課題

- ・ 地域に多様性が求められており、ジェンダーの意識が低い地域は若者から見捨てられていくことになる。多様性の考え方は教育を通じ子ども達に教えていかなければならない。
- ・ 移住を検討する際、地域に状態の良い住居が無いことが課題であり、移住者向けの住宅整備に対し公共で支援する制度があると良い。
- ・ 地域の高齢者の方にとってはバス等の公共交通機関の利便性の確保が不可欠である。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 北海道は生産者との距離が近いことが魅力であり、食に関わる方も意識が高く、食育に関し豊かな環境であることから、廃棄される未利用食材の活用なども考えていけると良い。
- ・ 地場産品を生産者と直接接しながら食べられることや、産地での体験ができるといった魅力を活かすことで安定した観光につながる。
- ・ 地域で店先などでのひな人形の展示や花嫁行列といった個性的なイベントを行っており、ツアー旅行や外国人の来訪など、関係人口の増加や誘客につながっている。
- ・ 新幹線は航空機と比べ環境にやさしく移動のストレスも低いことから、今後、北海道新幹線の価値は高まると考えている。

〈市町村〉

■地域の課題

- ・ 各町で町立病院を抱えることは非効率であるため自治体病院の統合を検討する必要があるが、なかなか進まない。道立病院を中心としたネットワーク構築や、地域医療確保に向けた自治体間の連携を進める必要がある。
- ・ 地域交通はデマンド化を進めており、路線バスの縮小、タクシー事業者の撤退や業務縮小もある中、高齢者をはじめとした住民生活の維持のため、地域交通の確保は自治体が担う必要がある。離島がある地域として、産業や生活を支えるフェリーの運行に関する支援も重要である。

■地域の強み・今後の方向性

- ・ 檜山沖が洋上風力発電の有望区域とされていることから、カーボンニュートラルの実現に向け管内全体で取組を進めたいと考えており、港湾の活用や発電機のメンテナンスなど、地域振興への効果波及に期待している。
- ・ 北海道新幹線の長万部駅の開業により檜山北部への誘客も期待されることから、渡島北部・檜山北部の自治体が振興局の区域を越えて連携し、地域への誘客の取組を進める必要がある。

上川

〈地域住民〉

■地域の課題

- 個別の市町村やエリア単位ではなく、北海道として一つのパッケージでインバウンド獲得を目指すためには、民間委託した道内7空港や二次交通としての鉄道活用を検討すべき。
- ラピダスの千歳進出により経済活性化に繋がるという期待感もあるが、建設現場の作業員が全道的に不足するなど、地方にとってマイナスの影響が出ないか不安視している。
- 保育士の人材不足が続き、園児の受入体制が整わず待機児童が生じると、子どもの産み控えにもつながる。
- 札幌一極集中是正のため、市町村を越えた圏域ごとの地域振興策を講じる必要があり、各圏域の地域振興を進めるため振興局の裁量を増やすと良いのではないかと。

■地域の強み・今後の方向性

- 旭川家具は一定のブランドを確立しており、小規模な家具工房が旭川市と近隣エリアに点在し、それぞれの個性を放っている。
- 市立の介護施設で外国人実習生を受け入れ、地域で活躍する実習生のモデルケースを作ることにより、地域に馴染む形で外国人実習生の受入増を目指す取組を進めている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 農業が基幹産業であることから農業振興に力を入れることが重要であり、人材育成や行政で対応が難しい部分を民間との連携で補っていく考え。
- 森林資源の活用にあたり、林業振興による森づくりと環境整備、6次産業化や木質バイオマスエネルギーの利用、木材の付加価値を高める製材工場の誘致など、課題は多い。
- 高校と連携し福祉の人材不足解消の取組を行い、地元の就職率アップへ繋がっていることから、人材不足の解消に向け、課題を明確にして解決に向け取り組む必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 人口減少が進む中、交流人口よりも地域住民と関わりのある関係人口をどのように増やすかを考えながら事業を展開することが重要と考えている。
- 地域課題を解決するためには行政だけでは知恵やノウハウなどが不足しており、SDGsの視点も取り入れながら、民間の力も借りて課題を解決することが重要である。
- 町内にエゾシカを主原料とした健康食品の研究製造拠点が整備される予定であり、北海道が抱える有害鳥獣の問題を地方だからこそその稼ぐ力に変える挑戦をしていきたい。

留萌

〈地域住民〉

■地域の課題

- 地域産業を伸ばすには輸出が重要であり、高い冷凍技術や日本食ブームなども利用し、道として食品輸出の取組に力を入れてもらいたい。
- 留萌管内の急性期医療は、医師、看護師をはじめ医療スタッフが不足する厳しい状況にあり、この先10年どころか5年後でさえ安定的に維持できるか心配している。
- 物流の2024年問題に関し、トラックの長距離輸送の際に交代要員が必要となり、物流が滞る恐れがあることを危惧している。

■地域の強み・今後の方向性

- 移住者やUIターンで来た方からは、農業でも漁業でも自分が頑張れば稼げる産業は魅力的で、生活も確保されていると聞いている。
- 地域の発展のため従事する産業を伸ばそうとチャレンジをする方が増え、斬新な感覚で磨き上げが進めば、おのずとポテンシャルが上がり、地域のブランド化につながる。
- 北海道でアウトドア熱が高まる中、地域には自然豊かなフィールドがあることから、地域の方々が自然を楽しむ、地域資源が活かされるチャンス到来と考えている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 送電容量が不足し余剰電力を送電できないため、公共施設への電気供給のための風車を設置できないなど、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かし切れていない。
- 人材不足のため農業、介護、宿泊施設など様々な業種で外国人の支えがないと産業が立ち行かないことから、町としても多文化共生に向けた取組に力を入れている。
- 地理的に不利なことから町立病院の医師、技術職が確保できず、近隣町で同じ診療科医師を求めている中で、広域的に確保するなど、連携ができないか考えている。
- 路線バスがない地域において町で相乗り交通事業を行っているが、運転手、利用者とも新規の参加がない中、地域公共交通計画の策定にあたり事業の取扱いが課題である。

■地域の強み・今後の方向性

- 留萌管内全体で農水産物のブランド化を進めており、道外への発信にあたり道や振興局の協力をお願いしたい。
- 閉鎖予定だったの焼尻島のサフォークを放牧する町営牧場が一転して民間事業者への譲渡に向け調整が進んでおり、地域ブランドへと成長していたことを改めて認識した。
- 利尻富士が見えるなど、管内の景観は地域の財産であり、サイクルツーリズムなどでの活用を期待している。
- 道の総合計画において14振興局の特性をどう捉え、各地域の現状と課題を把握・分析するのか注視している。

宗谷

〈地域住民〉

■地域の課題

- 最近は団体観光客が減少し個人客が上回るが、個人客向けのアクティビティがないので、体験型など個人客を想定した観光にする必要がある。
- 人手不足は地域産業などに大きな影響を与えている中で外国人材の活用は重要であり、外国人が安心・安全に暮らせる共生社会の構築に向けた仕組みづくりが必要である。
- 高い報酬や地域の魅力だけでは地域に医師は定着してもらえないことから、都市部の大病院が地方病院を関連施設に位置づけ、医師を派遣できる仕組みがあればいい。

■地域の強み・今後の方向性

- 利尻のウニの単価は日本でトップレベルのブランドになっており、中国の輸入制限の影響も受けていないことから、漁業従事者は一般的なサラリーマンよりも収入は高い。
- 稚内は風が強いのが悩みだが、一方でその風は再生可能エネルギーを生み出す地域資源として大きなポテンシャルを秘めている。
- 地方で子育てをするメリットとして、のびのびと生活できる環境下で前向きな子どもに成長するといった人間力の向上が挙げられる。

〈市町村〉

■地域の課題

- 労働力不足が島内共通の課題であるが、数年前から水産加工業者に外国人労働者が少しずつ入っており、今後も増えると考えている。
- 外国人材への依存度が大きくなる中で、管内で連携しながら外国人への支援を考える必要がある。
- ラピダスの千歳進出により、関連産業の道央圏への一極集中が加速化することを懸念しており、地方では建設作業員などが流出し、人手不足が問題となる恐れがある。
- 町内の居住地域の多くが土砂災害警戒区域に指定されており、過去には土砂崩れで犠牲者も出たが、避難指示を出しても住民避難につながらないことが課題である。

■地域の強み・今後の方向性

- 漁業者は近年、ウニやコンブ、ナマコを捕るだけで生活できるほど経営環境が良く、若い漁業者も入ってきている。後継者確保のため漁業権の取得も容易になっている。
- 地域の少子化が進む中、世界的には人口が増加していることから、地域の特産品の輸出や、観光・地場産品の情報発信に取り組むことが重要である。
- 利尻空港と丘珠空港を結ぶ航空便が通年運航され、札幌の病院を受診するのも比較的容易であり、観光客もアクセスしやすいことは利点である。

オホーツク

〈地域住民〉

■地域の課題

- 観光ガイドは地域の魅力を上手く伝えるという、地域からも求められる仕事であり、ガイドだけで生活できるようになればもっと地域に関わることができる。
- 誰もが知らず知らずのうちにゼロカーボンやSDGsの取組を進めているという仕組みを作ることが、ゼロカーボンの目標達成に向け必要である。
- 人口が減少していく中、広域的な視点から、都市機能と農山村地域など機能を分担する必要がある。

■地域の強み・今後の方向性

- 一次産品の高付加価値化のため、加工能力、商品企画力と営業力が向上すれば、北海道の食のポテンシャルである原材料を十分活かすことができる。
- コロナ禍を通じた価値観の変化、補助金や空き店舗の活用などの好条件を背景に、マッサージやネイルサロンといった「癒やし」を提供する女性による起業が増えている。
- 世界遺産や国立公園にすぐアクセスでき、北海道らしい広大な自然を身近に感じられることが地域のポテンシャルと考えている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 酪農業は国のクラスター事業により拡大してきたが、資材高騰の影響を強く受けて厳しい状況であり、国内での配合飼料の安定供給を図る必要がある。
- 酪農ヘルパー組合の支援で休暇を取得し、海外旅行に行く若手酪農家もいることから、新規就農者確保にあたり、こうしたPRも行い酪農業のイメージを変える必要がある。
- 産業に外国人労働力は不可欠であり、外国人の文化やコミュニティも尊重する必要があるが、様々な国の外国人が地域におり、町だけで対応するのは難しい。
- 路線バスは地元の高校生の通学の足として無くすことができないが、自治体が行う運行赤字の補填の負担も増加しており、この先の維持について不安を抱えている。

■地域の強み・今後の方向性

- 芝ざくらやハッカなどの地域資源を活かし、香りに特化した観光地づくりを進めており、視覚障がい者を対象としたユニバーサスツーリズムにも取り組んでいる。
- 人口減少下でも年齢構成バランスがとれていれば地域の維持活性化は可能であり、基幹産業を活性化させ雇用の場を作り、子どもを地域に根付かせる仕組みの構築を進めたい。
- インターン経験者が友人を連れて地域のイベントを手伝うなどの交流が続いている。地域おこし協力隊として戻る人もおり、こうしたつながりを大切にしたい。

十勝

〈地域住民〉

■地域の課題

- 天候による収穫量への影響が小さくなり農業経営安定につながることから、計画的な基盤整備事業による土地改良は重要である。
- 産婦人科と小児科の医師が足りないため、道外医科大学などとも連携するなど、より積極的な人材確保が必要である。
- 物流の2024年問題として運輸業への影響を懸念しており、長距離輸送となる道東地域では1日で運べる距離が短くなるため、新たな物流拠点の整備などの対応が必要になる。

■地域の強み・今後の方向性

- 全国の食料自給率を引き上げるためには、水稻の栽培を復元する一方、小麦の生産量は維持し輸入量を減らすことが必要であり、北海道は高品質な米産地なので、生産地として国の食料自給率向上に貢献できる。
- ゼロカーボン推進の観点から、放牧の酪農は環境に良いということを知っている方々に知っていただきたい。
- 地元の農業高校と共同で商品開発から販売まで行うプロジェクトを実施したが、このような活動をきっかけに卒業後も町内に定着することを期待している。

〈市町村〉

■地域の課題

- 町立病院の看護師、薬剤師や検査技師の確保が課題となっており、特に薬剤師は町の給与水準では集まらないが、容易に金額を上げることもできず苦慮している。
- 地域公共交通の確保は議会でも議論となっており、デマンド交通などの導入検討が必要。住民からは路線バスだけでは不便という声が寄せられており、高校生の通学の足の確保も含め相対的に検討する必要がある。
- 農畜産物の国内外への確実な供給のため、道路や港、空港、鉄道といった交通網の強化が重要である。
- 熊や鹿など野生動物の出没が増加しているため、道に対策をリードしてもらいたい。

■地域の強み・今後の方向性

- 町内に放牧酪農を営む酪農家があり、飼料高騰や生乳の生産抑制が行われている中でも安定した経営を行っている。
- 林業資源は豊富であり、Jクレジットの活用の可能性など林業のポテンシャルはある。

釧路

〈地域住民〉

■地域の課題

- 若者の就労者が減る中で地元企業が自社の魅力を創出できていない。自社の魅力を経営者だけでなく従業員も語れるなど、人材不足解消には企業側の努力も必要である。
- 学校現場で福祉業務への理解を深め、生徒に福祉・介護業務のやりがいを伝えていただけると、介護人材不足解消の一助になると考えている。
- 地域住民は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生リスクは知っているが、発生した際の対応を理解していないため、災害対策を日常的に啓発する必要がある。
- 物流の2024年問題で、地元の民間業者では運転手の繋ぎができる体制がとれない可能性があり、関東など大量消費地への鮮魚の輸送に支障が出ることを懸念している。

■地域の強み・今後の方向性

- 冬期間の仕事の確保を目的にウニ養殖を始めたが、道外でも高い評価を受け、養殖が年間収入の半分を占めるほどになった。
- 観光客には釧路で涼しい夏を過ごしてもらおう、涼しい釧路を推しており、夏場の長期滞在者も増えるなど、涼しい釧路の夏を求めた観光や滞在は着実に伸びている。
- 広大で自然が多いところが好きという理由で地域に住んでいる方は多く、JRが通る地域もあり、多くを望まなければ地域で生活の不便はないところが魅力と感じている。

〈市町村〉

■地域の課題

- 管内の酪農業、漁業の共通課題は担い手の確保であり、豊かな資源があり高品質なものを出荷できる地域だとしても、後継者がいなければ将来にわたって産業が成り立たない。
- コロナ禍や国際情勢の影響などにより、基幹産業である酪農、畜産業が非常に大きな影響を受けており、資料や肥料などを外国に頼らない地産地消がこれから重要になる。
- 水産業や農業では海外からの実習生、研修生が大きな力となっており、他の業界でも労働力を必要としていることから、海外からの労働者の採用を進めるべきと考える。

■地域の強み・今後の方向性

- 東北海道の豊かな自然は、観光の観点からも大きな価値があり、サイクルツーリズムも自然に触れる、滞在時間が確保されるという点で観光振興につながる。
- 次世代にこの地域の良さをつないでいくため求められる施策を講ずる必要があるが、市町村単位だけでなく釧路管内が一体となつての政策を展開することも必要である。

根室

〈地域住民〉

■地域の課題

- 中国による日本からの輸入水産物への検査強化によりホタテの輸出に影響が出ている中、他国への販路拡大などで道の役割に期待している。
- 北方領土に隣接しており、ロシアとの関係悪化で安全操業を行えないことで、他国船による操業やロシアトロール船の乱獲など、漁業や地域経済に影響を与えている。
- 災害時の避難は高齢化などにより要支援者が増加し、車での避難が中心となるので、避難路の整備が必要である。
- 物流の2024年問題で、消費地から離れている地域でトラック輸送能力が不足する事態が生じることを強く危惧している。

■地域の強み・今後の方向性

- 酪農業は厳しい状況にあるが、粗飼料を自給できることが地域の強みである。
- 世界的に見ても貴重な財産として日本遺産に登録されている「鮭の聖地」の物語や地域の豊かな自然など、地域財産を守り続けることが必要である。
- 地域のありのままの自然が一番の魅力であり、良さを受け入れていただける方に来てもらえば良いと考えており、こうした魅力を発信し地域を知ってもらおう取組を進めたい。

〈市町村〉

■地域の課題

- 漁業が主力産業であるが、漁獲量が減少し主要魚種の秋鮭は右肩下がりとなっており、漁業の不振により人の流出にもつながる。
- 病院の医師、看護師が不足し、定着してもらえない。看護師は独自の奨学金制度を設けているが返済免除期間を経過すると退職してしまう。
- 北方領土の元島民の高齢化が進んでおり、返還運動が薄れてきているが、国際情勢が困難な状況だからこそ、返還要求のための国内啓発の充実が重要と考える。
- ラピダスの千歳進出に伴う工場建設により人材・資材が道央に一極集中し、既に建設人材が不足しており、更に人材が流出すると地域の公共事業にも大きな影響が生じる。

■地域の強み・今後の方向性

- ブリの漁獲が増え、漁業者も船上での活き締めなどの付加価値向上に努めており、調理法のPRなどにより今後の消費拡大を期待している。
- 大規模草地を有しているため飼料は自給でき、資材高騰の影響が少ないことが地域の酪農経営の強みである。
- 根室管内のみならず釧路・オホーツクの隣接町といった広域で相互依存関係にあり、周辺自治体の人口減少が各自自治体の経済にも影響することから、様々な取組を広域的に進める必要がある。
- 町内にIT専門学校が開校する予定であり、地域のデジタル人材の確保や、若者の増加による地域活力の向上に期待している。